財団法人 東洋文庫年報

平成3年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 平成3年度

目　　次

I 図　書　事　業 …… 1
1. 図書資料の収集 …… 1
2. 図書資料の保存整理 …… 2
3. 図書資料の利用 …… 3
4. 研究資料複写サービス …… 5
II 研　究　事　業 …… 6
1. 調査研究 …… 6
i 文部省科学研究費による調査研究 …… 6
ii 一般調査研究 …… 11
iii 特別調査研究 …… 14
iv その他の研究助成金による事業 …… 16
v 研究委員会 …… 19
2. 学術図書出版 …… 20
3. 講　演　会 …… 21
4. 研究会（東洋文庫談話会） …… 23
5. 研究者養成 …… 23
6. 学術情報提供 …… 23
i 研究者の交流及び便宜供与サービス …… 23
ii 研究会等への会場提供サービス …… 28
iii 研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス …… 28

iv　参考情報提供サービス …… 28
7.　職員の研究業績 …… 29
III　業　務　報　告 …… 72
1.　総務報告 …… 72
2.　人事報告 …… 74
IV　役 職 員 名 簿 …… 76
1.　役　　員 …… 76
2.　東洋学連絡委員会委員 …… 78
3.　名誉研究員 …… 78
4.　職　　員 …… 79
5.　臨 時 職 員 …… 83
V　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業 …… 84
1.　情報活動 …… 84
2.　研究成果の英文出版 …… 88
3.　調査研究及び普及活動 …… 89
4.　業務報告 …… 90
5.　役職員名簿 …… 94

付　表

「財団法人東洋文庫東洋学講座開催略年表」 …… 45～71

I 図書事業

1. 図書資料の収集

購入・交換・寄贈によって収集した資料は，一般文献資料・中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料・東南アジア特別研究資料・チベット特別研究資料・近代中国特別研究資料などがあり，昨年度より14,123冊増加して蔵書数は751,530冊となった。

●資料購入

	和漢書	洋書	マイクロ・フィシュ	マイクロ・フィルム	計
	冊	冊		巻	
一般文献資料	309	88	0	0	397
中央アジア特別研究資料	880	246	0	15	1,141
東アジア特別研究資料	1,242	2	0	78	1,322
西アジア特別研究資料	0	1,579	0	0	1,579
東南アジア特別研究資料	0	44	0	0	44
チベット特別研究資料	36	242	0	0	278
近代中国特別研究資料	1,088	117	0	0	1,205
計	3,555	2,318	0	93	5,966

●資料交換

	受贈			寄贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
	冊	冊	冊	冊	冊	冊
単行本	1,128	222	1,350	1,666	1,067	2,733
定期刊行物	5,189	1,711	6,900	1,276	1,245	2,521
計	6,317	1,933	8,250	2,942	2,312	5,254
定期刊行物タイトル数	926	372				

2. 図書資料の保存整理

●補修再製本・製本

①

	単行本			
	和装		洋装	清掃クリーニング
数量	葉 裏打 4,585	冊 213	冊 376	冊 921

②

	定期刊行物	製帙	複写資料製本			その他
数量	冊 1,525	帙 515	冊 和装 3	冊 洋装 87	折 332	件 96

●撮影・焼付

	撮影齣数	焼付引伸数	フィルム反転	電子複写数	整理作業
数量	コマ 75,265	枚 34,137	リール 146	葉 118	件 3

・新着図書目録の刊行

東洋文庫が1990年4月から1991年3月までの間に収集した和書・中国書・朝鮮書・近代中国和書・近代中国中国書の書名目録第39号が刊行された。

3. 図書資料の利用

●図書閲覧状況

平成3年度の所蔵図書の閲覧状況は次の通りであった。

月	開館日数		閲覧者数		日平均	昨年同月との比
	日	累計	人	累計		(△印は減)
4	22	22	261	261	12弱	31
5	21	43	272	533	13弱	6
6	22	65	301	834	14弱	△33
7	24	89	387	1,221	16強	△ 6
8	24	113	441	1,662	18強	△96
9	21	134	335	1,997	16弱	△ 2
10	23	157	405	2,402	18弱	58
11	20	177	399	2,801	17弱	31
12	20	197	376	3,177	19弱	44
1	19	216	256	3,433	13強	1
2	21	237	275	3,708	13強	25
3	22	259	285	3,993	13弱	34
計	259	259	3,993	3,993		93

●閲覧図書数内訳

	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	227	530	481	2,037	170	360	878	2,927
5	223	433	448	2,497	162	325	833	3,255
6	228	396	677	4,850	130	238	1,035	5,484
7	307	646	767	4,169	229	509	1,303	5,324
8	254	431	1,119	6,163	330	579	1,703	7,173
9	228	583	700	4,012	232	435	1,160	5,030
10	281	473	808	5,817	271	424	1,360	6,714
11	264	414	791	5,846	218	447	1,273	6,707
12	404	611	848	5,610	221	359	1,473	6,580
1	183	275	509	3,286	132	340	824	3,901
2	239	385	482	2,182	219	392	940	2,959
3	281	489	675	4,460	165	272	1,121	5,221
計	3,119	5,666	7,305	50,929	2,479	4,680	13,903	61,275

●展示会等への資料の貸出

博物館・美術館等が主催して行う展示会への貸出しは3件あり，貸出資料は合計8点であった。展示会名，主催者，展示期間，開催場所，おもな資料名と数量は次のとおりであった。

展示会への資料の貸出一覧

	展示会名	主催者	展示期間	開催場所	主な資料名と数量
1	吉野ヶ里遺跡と東北の弥生	仙台市博物館	平成3.4.27 —5.7 3.5.26 —6.9	仙台市博物館	三国志（百衲本）1点 三国志（仁寿本）1点
2	博多禅	福岡市博物館	平成3.10.19 —11.1	福岡市博物館	蕉堅藁他4点
3	海上の道—沖縄の文化	名古屋市博物館	平成4.3.7 —3.21	名古屋市博物館	琉球画記1点

4. 研究資料複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行なったもので，実績は下記の通りであった。

●マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸数	ポジ・フィルム
887件	150,937	72,374	86,301

●電子複写

申込件数	焼付枚数
920件	89,882枚

II 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は，文部省科学研究費補助金によるものと，国庫の補助金による一般・特別研究と，並びにその他の研究助成金によるものとにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究 (B)

【課 題】「三国志に記された東アジアの言語および民族に関する基礎的研究」

【期 間】平成3年度 （3ヶ年継続事業第2年度）

【目 的】 戦後何度か日本人の起源が問われ，その都度日本語の起源が問い直されてきたが，日本語の起源は今のところ結局不明のままに終わっている。その起源の無益な論争よりも，日本民族が古代の東アジア（中国東北部・朝鮮半島及び日本列島）に出現したとき，その周辺にいかなる民族が居住し，いかなる言語を話していたかを探究することの方が，日本語の前史を明らかにする上で重要である。それを知る上で最も貴重な資料が中国の史書『三国志』である。

『三国志』は，その中に東夷伝倭人の条（いわゆる魏志倭人伝）を含むことからも明らかなように，当時の倭その他の民族の諸状況および中国との関係を探る上で，最も基本的な文献である。本研究では，『三国志』の成立と伝承をめぐる諸問題の再検討の，ならびに本文批判の基礎のうえに，当時の東アジアの言語と民族についてさまざまな角度から探究することを目的とする。

【事 業】第一次年度（平成2年度）に引き続き，その成果を基に次の作業を行った。

① 平成2年度に完了した『三国志』「魏志」と『太平御覧』所引の文との対照表により，校勘を伴うテキストをコンピューターに入力した。

その際，本研究の主題に鑑み，まず，「烏丸鮮卑東夷伝」の入力を完了した。

② ①で得られたテキストにより，「烏丸鮮卑東夷伝」に記されている諸民族につき，選定した項目（民族名，官職名等）をコンピューターに入力し，これを索引としてこれら諸民族の関係を考察した。

③ ②の考察の課程で最も問題となるのは高句麗の正体である。高句麗は言語学的資料となるものを殆ど残していないので，間接的にその正体を探るべく，次の三つの作業を行った。

(a) 朝鮮の史書『三国史記』「地理志」に記されている古地名について，これらが高句麗語であるという説があり，それについて，中でも韓国及び北朝鮮の学者の見解を参考として，独自の探究を試みた。

(b) 古代朝鮮の高句麗・百済・新羅の三国の言語資料として，我が『日本書紀』の中の，韓土の地名・人名・官名などについて独特な訓み方が伝承されている。これらがいかなるものか考察した。

(c) 高句麗滅亡以後の，この民族の変遷は不明である。確実なことは，渤海との関係であるが，渤海を含めて「靺鞨」という民族が研究の焦点に浮かび上がってきた。そこで，この靺鞨について中国の正史，『後魏書』から『金史』に至るまでの，外夷伝について関連する民族名等の項目を追加選定し，これをコンピューターに入力して，靺鞨の研究を行った。

④ 高句麗や靺鞨の移動を知るために，まず今日の旧ソ連領内の各言語の分布状況を地図に投影してみた。これを基にして『三国志』に見られる紀元３世紀のユーラシア大陸の民族の分布を地図化して，日本を含めて現在の，東北アジアの民族移動の跡を明らかにする予定である。

【代表者】 河野六郎研究員

【分担者】 総括； 河野六郎（朝鮮語・言語学）
言語・音韻班； 亀井 孝（国語学・言語学）， 古屋昭弘（中国語学）
民族・歴史班； 松村 潤（東洋史・満州語）， 武田幸男（朝鮮史）
歴史・考 証； 石川重雄（中国史）

総合研究 (A)

【課 題】「宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の研究」

【期　間】　平成３年度　（２ヶ年継続事業最終年度）

【目　的】　宋より明清に至る科挙・官僚制の研究は近年盛んとなりつつあるが，未だに緒についたばかりであり，その総合的な把握にまではいたっていない。それは一つには，一王朝内の研究でも未開拓の分野が少なくないからである。例えば，宋の銓衡制の基本文献である永楽大典吏部条法について，最近，研究の手がかりが与えられつつあるが，読解されないまま遺されている部分は依然多い。二つには，各王朝の研究成果が比較検討されていないからである。各王朝内の研究成果の進展に鑑み，今日，上記二つの作業は並行して進められなければならない。我々は積年，宋史選挙志の資料批判に当たってきたが，そこには宋より明清に至る研究者の参加を得ている。そこで本研究は，それらの研究者を動員し，宋史等の選挙志の資料批判を徹底させ，同時にその成果を基礎に宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の変遷について解明しようとするものである。

【事　業】　本研究は，宋より明清に至る科挙・官僚制度とその社会的基盤の解明を目的とし，具体的な研究計画は，(1)まず宋史・元史・明史の各選挙志の資料批判を徹底させる，(2)各時代の科挙・官僚制度関係語彙に解説を施す，(3)各時代の士大夫の入仕過程を明らかにする，というものであった。(1)と(2)については，中嶋敏編『宋史選挙志訳註㈠』，研究分担者の諸業績，『研究成果報告書』所載諸論文等によって，ある程度達成することができた。特に『宋史選挙志訳註㈠』は，宋史選挙志の科目・制挙・学官試・童子挙・挙遺逸の項目について，基本的な資料を挙げつつ，厳密な訳文とともに詳細な註釈を施したものであり，宋代科挙制度研究への貢献は多大であると自負するものである。『研究成果報告書』所載元豊官志索引・科挙関係文献（和文・中文）目録稿も，宋代科挙・官僚制研究に少なからざる便宜を与えることとなろう。われわれは更に，宋史選挙志の学校試・銓法・保任・考課の項についても研究を続け，元史・明史のそれと比較検討しなければならない。また永楽大典吏部条法の解読も，課題として残された。研究の過程で，上記の如き科挙・官僚制そのものの基盤的研究の必要性を痛感したため，また３年計画が２年に短縮されたこともあり，(3)については，ほとんど着手することができなかった。しかし，最終の目標が(3)の研究にあることは言うまでもない。基礎的研究を踏まえ，将来何時か取り組む日の来ることを念願するものである。

【代表者】 中嶋　敏研究員

【分担者】 総括；　中嶋　敏（中国宋代史）
宋代班（宋史選挙志科目分担）；　佐伯　富，千葉　兕，柳田節子
竺沙雅章，斯波義信（以上，中国宋代史）
宋代班（宋史選挙志銓法分担）；　渡辺紘良，近藤一成，石田　肇
長谷川誠夫（以上，中国宋代史）
元代班（元史選挙志分担）；　相田　洋，鈴木立子（以上，中国元代史）
明清班（明史選挙志分担）；　山根幸夫，安野省三（以上，中国明清史）

一般研究　(A)

【課　題】「東南アジア・南アジア史研究資料の基礎的研究」

【期　間】 平成３年度　（２ヶ年継続事業初年度）

【目　的】　今日，東南アジア・南アジア研究者のあいだでは，特定の分野・個別的研究のわくをこえた総合的また学際的な研究の必要性，ならびに開かれた研究機関での系統的・網羅的な資料収集・整理の必要性がますますたかまっている。こうした総合的な東南アジア・南アジア研究のために，東南アジア・南アジアの歴史研究の基本資料を，広く調査し，系統的・網羅的に収集することはきわめて有意義なことである。財団法人東洋文庫は今日までに東南アジア・南アジアの各時代・各分野を専攻する研究員を擁し，東南アジア・南アジア関係の研究資料を系統的に調査研究してきた開かれた機関である。本研究の目的は，当研究機関のこれらの研究員を動員して，東南アジア・南アジア史研究の基本資料を調査，収集すること，わが国の東南アジア・南アジア研究の進歩に貢献することである。

【事　業】　二ヶ年にわたる本研究の初年度である今年度においては，東南アジア・南アジア史の研究資料の国内における調査から始めた。国内の大学図書館等に所蔵されている東南アジア・南アジア史関連の資料はかなりの量にのぼるが，全体を網羅する体系的な目的が存在するわけではないので従来から利用にはかなり不便であった。今回の調査によって，今後に必要な系統的体系化への新たな知見が得られ，今年度の基礎的研究はおおいに進行した。

東南アジア史関連では従来から日本では手うすであったビルマ史およびビルマ語関連資料の収集に新たにつとめた結果，本研究にとって新たな知見が得られた。ビルマ史およびビルマ語関連資料は，個々の項目を整理し，相互の関連性を重視して，コンピューターに入力しデータ・ベース化した。次年度においてはその成果をまとめて出版し，公表する予定である。

南アジア史関連では，従来から，一部のみ，個別的におこなわれていた古代インド関連資料の，網羅的，体系的整理をおしすすめていった。本研究では，基礎的研究に必要なものに限定し，資料整理をおこない，データ・ベース化した。その結果，資料上での新たな知見が得られた。次年度は，今年度得られた知見を基に，用語の統一，関連事項の体系的整理を十分におこなって，索引づくりを完成させた上で，その成果をまとめ，出版し，公表する予定である。また中世インド関連資料において，従来，日本で手うすであったムガル時代資料の収集につとめ，イギリスの旧インド省関連東インド会社資料をマイクロ・フィルムにてとりよせた。今年度はそのうちの基礎的研究に関する部分だけであるが，研究上新たな知見が得られた。

【代表者】 山本達郎研究員

【分担者】 総括； 山本達郎（東南アジア史）
東南アジア・大陸部； 山本達郎（ベトナム，歴史），石井米雄（タイ，民俗）
東南アジア・諸島部； 池端雪浦（フィリピン，歴史）
南アジア・古代； 原 實（インド，文学），山崎元一（インド，歴史）
南アジア・中世； 荒 松雄（インド，歴史）
南アジア・近世； 小名康之（インド，歴史）

特別研究員奨励（日本学術振興会）

【課 題】「諸民族の進入とイスラム化の進行に伴う北シリアの社会構造の文献学的研究」［個人研究：太田敬子］

【期 間】 平成３年度 （２ヶ年継続２年度目）

【目 的】 近年，我が国における中東研究が目ざましい発展を遂げているのは周

知の事であるが，同地域の前近代の社会構造については，「イスラム社会史」「イスラム都市論」という観点からのみ論ぜられる傾向が強い。また利用されている資料としてもアラビア語（地方によってはペルシア語）だけという偏りがある。しかし，今後更に研究のレベルを向上させるためには，イスラム以前の時代からの一貫した歴史把握と，中東各地域の歴史的特殊性を考慮に入れた地方史研究の積み重ねが重要となろう。そこで申請者は同地域の中でも，ヘレニズム文化・東方キリスト教文化のかつての中心地であった北シリアについて，同地の文化的多様性を重視し，アラビア語だけでなくマイノリティー諸言語を含めた史料を収集，整理，分類する事を本研究の目的とし，北シリア中世史についての総合的な史料体系化を進めている。（以下具体的事業報告省略）

ii　一般調査研究

本年度は，特に，東亜考古学研究委員会，中央アジア・イスラム研究委員会を中心に調査研究を行った。（研究課題の後に付された◉印は，文部省補助金事業費使用担当として主に重点的に行った事業を表わす。）

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】『東洋文庫所蔵梅原考古資料目録　III　—日本之部・中国之部—』の作成。◉（なお，左記の目録作成のために，参考資料７冊を購入した。）

古代史研究委員会

【資料の整理】　東洋文庫所蔵中国画像名，造像名，墓碑銘拓本の整理研究。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】　①　国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と，マイクロフィルムによる収集・整理。

②　内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献の公開，および情報の提供。

③　『敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集 Vol. IV—社文書—（A）Texts』の編集・刊行。

④　敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（目録補遺）の補充。

⑤　内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上，前年度の継続）

4月20日(土)　池田　温　「『敦煌社会経済文献真蹟釈録』第1～5輯・紹介」
　　山本達郎　「西州の均田制に関する二，三の設問」
5月18日(土)　熊本　裕　「敦煌出土の二，三の于闐語文書について」
6月15日(土)　石田勇作　「社文書について」
7月20日(土)　伊藤美重子　「兒郎偉歌の周辺」
9月21日(土)　荒川正晴　「南疆遺跡参観報告」
10月26日(土)　林　俊雄　「新疆北部考古調査報告」
12月4日(水)　侯　燦　「吐魯番出土墓磚及其研究概述」
1月25日(土)　川崎ミチコ　「仏入涅槃と仏母経について」
2月22日(土)　京戸慈光　「中国仏教偽経典について」
3月28日(土)　伊吹　敦　「北宗禅に関する二，三の敦煌文献について」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究】　①　宋史食貨志訳註，選挙志訳註の作成。(前年度の継続)
②　宋代研究文献目録及び速報の作成。
③　『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。

明代史研究委員会

【資料の整理・研究】『万暦野獲編』(元明史料筆記叢刊之一)を主として，明代社会経済に関する文献の講読・研究。(隔週，研究会の開催)

清代史研究委員会

【資料の整理・研究】　①　「東洋文庫所蔵満洲檔」の整理・研究。
②　『崇徳三年満文檔冊』の講読研究会の開催。(隔週，研究会の開催)　(以上，前年度の継続)

近代中国研究委員会*

【資料の整理・研究】　①　近現代中国関係資料の書誌的研究。
②　戦前期日本の中国調査資料の研究。
研究会の開催
9月28日(土)　奥村　哲　「無錫における養蚕業と地主制――三つの農村調査を中心に」
　　吉田浤一　「戦前期日本人の中国農村認識」
9月29日(日)　久保　亨　「支那問題研究所の活動――天津・北京工業調査を中心に」

③　日中現代史研究会の開催。

4月25日(木)　本庄比佐子　「東洋文庫所蔵横田コレクションと横田実のあれこれ」

6月21日(金)　土田哲夫　「〝満州国〟の中国人協力者について」

9月13日(金)　尾形洋一　「川上俊彦について」

12月19日(木)　安藤正士　「西安事変における中共の政策について」

2月7日(金)　伊香俊哉　「日中戦争前夜における中国認識・中国政策」

3月14日(土)　西村成雄　「張学良政権下の幣制改革」

④　『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録――中国文II（附・索引）――』の編集・刊行。（前年度の継続）

日本研究委員会

【資料の整理・研究】　①　『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題（II）』以降の作成。（前年度の継続）

②　日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

【資料の調査・研究】　①　李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

②　漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・整理，研究】　①　『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。

②　『東洋文庫所蔵アラビア語・トルコ語文献目録（補遺）』の作成。◉

③　イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。（以上，前年度の継続）

第104回　6月1日

松本　弘（上智大学アジア文化研究所共同研究員）

「北イエメンにおける地方行政制度と部族構造」

第105回　9月28日

大稔哲也（東京大学大学院）

「オールド・カイロ生活誌」

第106回　11月2日

三沢伸生（慶応大学大学院）

「オスマン朝治下の地方都市：16世紀の検地帳による考察」

第107回　12月７日
近藤信彰（東京大学大学院）
「18・19世紀ヤズドの一地方名家：モハンマド・タギー・ハーンとその一族」
第108回　12月21日
菅原　純（青山学院大学大学院）
「1864年新疆ムスリム反乱：各オアシスの動向」
第109回　（1992年）２月１日
松田俊道（東洋文庫奨励研究員）
「マムルーク朝時代の上エジプトにおけるウルバーンとファッラーフの反乱について」
第110回　２月29日
磯貝健一（京都大学大学院）
「16世紀初頭の中央アジアにおける支配者とウラマー」

④　中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
⑤　イスラム社会の構造の研究。
⑥　隊商貿易史の研究。
⑦　トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会*

【資料の整理・研究】　①　東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
②　チベット学に関する研究会の開催。（以上，前年度の継続）

南方史研究委員会

【資料の整理・研究】　東洋文庫所蔵インド学関係資料（辻文庫図書）の整理とその分類目録及び索引の作成。（以上，前年度の継続）

（なお，研究委員会名に＊印の付した委員会の事業は，「iii　特別調査研究」の事業を別途に行っている。）

iii　特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目　　的】　チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合

的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究
チベット研究委員会招聘のチベット人研究者（ゲールク派・デプン寺ゴマン学堂長 Kenpo of Gomang Datsang College）Tempa Gyaltsen 氏の協力の下に下記の作業を進めた。

① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂の資料として，各文献の奥書きを収集し解読，分析を進めた。
② 現代チベット語について口語資料を収集し，記述的研究を進めた。
③ トゥカン『一切宗義』「ゲールク派」の章の邦訳・訳注を準備した。
④ トゥカン『一切宗義』「中国の章」の機械処理を進めた。
⑤ サキャ・パンディタ『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。
⑥ 『スタイン目録』注記篇の編集を進めた。
⑦ 『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』Vol. 3 - 4 の調査・編集作業を進めた。

2) チベット文献の収集・整理

区　分	和漢書	洋　書
数　量	36冊	242冊

3) 研究成果の刊行

① 『チベット論理学研究　第4巻』　B5判　1冊　（刊行済）
② 『東洋文庫所蔵チベット語刊本目録索引』　B5判　1冊　（刊行済）
③ 『A Study of the Pramāṇavārttikaṭīkā by Śākyabuddhi Part 1』　B5判　1冊　（刊行済）
④ 『チベット特別調査研究年次報告』　A5判　1冊　（刊行済）

近代中国特別調査研究（近代中国研究委員会）

【目　　的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

1) 共同利用研究

2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)

3) 図書資料の収集・整理

区 分	和漢書	洋 書
数 量	1,088冊	117冊

4) 研究成果の刊行

① 『近代中国研究彙報 第14号』 A5判 1冊 (刊行済)

iv その他の研究助成金による事業

三菱財団人文科学研究助成金特別事業 (宋代史研究委員会)

【課 題】 宋史食貨志の総合的研究 [研究代表者:中嶋 敏研究員]

【目 的】 宋史食貨志にかぎらず,歴代の正史食貨志は,国家財政をいかに運用するか,という観点より纏められたものであるから,それによって国民経済の実態を摑むことはできない。したがって,従来の中国経済史研究は,ともすると食貨志の活用に怠るところがあった。しかしながら,国家財政が国民経済に与える影響は軽視できないものであり,それを理解するためには,国家の理財観,具体的な財政政策を的確に把握しておくことが,まず求められる。宋史食貨志は,その要請に応えてくれる最良の書といえよう。日本においては嘗て,その翻訳が二三試みられ,最近中国において,歴代食貨志注釈の一部として宋史食貨志も数種類刊行されている。しかし我々の目指すものは,本文の一条ごとに徹底的に検討し,その詳細さでは類書の水準をはるかに超えようというものである。代表および研究協力者の所属した,中国歴代食貨志研究会は,昭和17年に『史記平準書・貨殖列伝訳註,漢書食貨志訳註』,昭和23年に『旧唐書食貨志・旧五代史食貨志訳註』,更に昭和32年には『明史食貨志訳註』を,陸続刊行してきた。宋史食貨志については,昭和35年にその第一冊を刊行したが,諸般の事情により,ついに途絶えたまま今日に至ったのである。

しかし代表研究者を始めとする我々の経済史研究は継続されており,

ここに一定の成果を見たので，宋史食貨志研究を再開し，所期の目的を達成するとともに，宋代財政運営の在り方を再検討しようとするものである。歴代食貨志のうち最大の分量を誇る，本書の訳註を完成させ，宋代財政の全体像を浮き彫りにすることができるならば，前後の王朝のそれと比較研究することにより，中国史上の国家財政および万般の経済諸事象を通観することが可能となり，中国史研究への寄与は多大であると確信するものである。

【事　業】 ① 会合を2回開き，内外既往の研究成果をふまえ，我々の研究方針を再確認し，研究分担，年次計画を話し合い，提出済みの原稿を素に，更に具体的に訳註等の原稿作成要綱についても検討した。

② 日本における研究は，早くも大正年間，福田徳三郎博士を中心に進められ，その成果は一橋大学の商学研究に発表されているが，今回調査したところ，食貨志上巻1～6，下巻1～8のうち，下巻7・8が欠けていることが判明した。また，九州大学文学部東洋史研究室の「宋史食貨志訳註」（東洋史学に連載）も，下巻5以下を欠く。

中国においては最近，王雷鳴編註『歴代食貨志註釈』，中央財政金融学院王子英他註釈『歴代食貨志匯編簡註』等が出版されたが，いずれも簡単なものである。なお江西人民出版社の『歴代食貨今訳』は宋史の部分は未刊である。

③ 当初協同研究者に予定していた，周藤吉之・中村治兵衛の両氏があいついで物故された。しかし両氏とも担当部分の原稿を作成されていた。特に，食貨志上巻5・6役法（上・下）を分担された中村氏の原稿は，200字詰め原稿用紙1,000枚に及ぶものである。また，中村氏は既に，『宋史食貨志人名索引稿』を作成され，宋史食貨志研究に率先して当たってこられた。そこで我々は，中村氏の原稿を執筆要項検討の素材とすることにした。

④ 中村氏の原稿を複写し検討したところ，既刊の『宋史食貨志譯註』㈠をほぼ踏襲し，詳細な註釈を付したもので，我々の方針と一致するものであることが判明した。そこで，なお仮名遣い，省略等を統一し，参照文献に補足すべきものがあるものの，ほぼ完結したものと見做し得るので，そのまま版下作成に回すことにした。

以上，既に出版済みの『宋史食貨志譯註』㈠では宋史食貨志上の巻1～3を扱ったので，今回はまず，その後の巻4から巻6までと，下の巻1から巻8までの，宋代における食料及び工産物の生産・管理・

運営と国家財政に関する部分を，代表及び協同研究者が分担し，諸文献よりの資料収集に当たりつつ各自訳註稿を作成する。更に宋史食貨志上の巻１～３を含む全体にわたる問題を検討し，宋朝の国家財政が果たした役割を，予定する三ケ年で再検討する。

生化学工業株式会社寄付金特定事業　（南方史研究委員会）

【事業名】　東南アジア研究資料収集整理プロジェクト［プロジェクト代表者：山本達郎研究員］

【期　間】　平成元年度～同６年度（６ヶ年計画）

【目　的】　本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当弥氏の寄付金５千万円を以て，東南アジア研究を促進するため，その研究資料を収集･整理し，研究者に公開することを目的とする。

【事　業】　1)　先に寄贈をうけたヴェラルデ文庫（主としてフィリピン関係の研究文献の収集）476点を分類し，コンピュータ入力を完了した。
2)　モリソン２世文庫3,281点の中，約1,700点を分類，コンピュータ入力，ラベル貼り，原簿登録を終え，書庫に搬入した。これで全体の約半分が終了した。

榎一雄記念特定事業

【事業名】　榎一雄記念事業プロジェクト　［プロジェクト代表：河野六郎研究員］

【期　間】　平成２年度～同６年度（５ヶ年計画）

【目　的】　本プロジェクトは榎家よりの寄付金１億円を以て，同家より寄付された故榎一雄博士旧蔵書の整理を行い，その目録を作成，刊行する。

【事　業】　前年度に引続き，蔵書整理を行い，約8,000冊の整理を終了した。その際，コンピュータに入力するフォームを作成し，カード及び冊子目録のソフトをほぼ完成した。

v 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は，5部門12研究委員会にわかれる。平成3年度の各研究委員会に所属する研究員，委員は以下のとおりである。

第1部　中国研究

東亜考古学：関野　雄

古代史：越智重明，宇都木　章，久保田宏次

唐代史（敦煌文献）：池田　温，菊池英夫，土肥義和，藤枝　晃
松本　明，荒川正晴，王　冀青

宋代史：草野　靖，佐伯　富，斯波義信，竺沙雅章，千葉　隆
中嶋　敏，柳田節子，渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺　宏

近代中国：市古宙三，滋賀秀三，田中正俊，本庄比佐子，矢澤利彦
趙　軍，佐々木揚

第2部　日本研究

日本：石塚晴通，海野一隆，亀井　孝，酒井憲二，佐竹昭広，田中時彦
杤尾　武，鳥海　靖，林　　望，柳田征司，山口謡司

第3部　東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：石橋崇雄，岡田英弘，神田信夫，C. A. ダニエルス
松村　潤，李　格

朝鮮：河野六郎，末松保和，武田幸男，古屋昭弘，森岡　康，山内弘一

第4部　中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村　坦，片山章雄，後藤　明，小松久男
佐藤次高，清水宏祐，志茂碩敏，蔀　勇造
杉山正明，永田雄三，花田宇秋，本田實信
三浦　徹，護　雅夫，八尾師　誠，太田敬子
張　承志，松田俊道，托　和提

チベット：川崎信定，北村　甫，立川武蔵，福田洋一，星　実千代
松濤誠達，御牧克己，山口瑞鳳，テンパ・ゲルツェン

第５部　インド・東南アジア研究

南方史：荒　松雄，池端雪浦，石井米雄，小名康之，風間喜代三，後藤均平
原　　實，三根谷　徹，山崎元一，山本達郎，白井　駿

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』　第73巻第１・２号　　平成４年１月刊　Ａ５判　167頁

『東洋学報』　第73巻第３・４号　　平成４年３月刊　Ａ５判　213頁

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No. 49　　1991年刊　Ｂ５判　118頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

『チベット論理学研究　第４巻』　　平成４年３月刊　Ｂ５判　　頁

『東洋文庫所蔵チベット語刊本目録索引』　　平成４年３月刊　Ｂ５判　58頁

『A study of the Pramāṇavārttikaṭīkā by Śākyabuddhi　Part 1』　　平成４年３月刊　Ａ４判　77頁（＋plates 12）

『チベット特別調査研究年次報告（平成３年度版）』　　平成４年３月刊　Ａ５判　10頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』　第14号　　平成４年３月刊　Ａ５判　87頁

『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録・中国文II（附・索引）』　　平成４年３月刊　Ｂ５判　612頁

宋代史研究委員会（平成３年度特別研究資料出版）

『宋史選挙志訳註㈠』（東洋文庫論叢第五十七）　　平成４年３月刊　Ａ５判　354頁＋索引61頁

東洋文庫諸目録・其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録—日本語図書・中国語図書・朝鮮語図書—』　第39号　　平成4年3月刊　B 5判　2＋69頁

『東洋文庫書報』　第23号　　平成4年3月刊　A 5判　139頁

『東洋文庫年報』（平成2年度版）　　平成4年3月刊　A 5判　75頁

『東洋文庫要覧（1991—1992）』　　平成3年6月刊　A 4判　19頁

『宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の研究』（平成2・3年度文部省科学研究費補助金・総合研究(A)研究成果報告書）　　平成4年3月刊　B 5判　175頁

『元豊官志　索引』（平成2・3年度文部省科学研究費補助金・総合研究(A)研究成果報告書・別冊）　　平成4年3月刊　B 5判　75頁

『中国貨幣史研究』（東洋文庫論叢第五十六）　　平成3年12月刊　A 5判　4＋465頁

3. 講　演　会

春期　東洋学講座（共通テーマ；暮らしのなかのイスラーム）

第403回　平成3年5月14日（火）

「スーフィズム
—黄土高原の希望—」　　中国作家協会理事　張　承志氏

第404回　平成3年5月21日（火）

「魚喰うアラブ
—湾岸激動の考古学的背景—」　　立教大学教授　小西　正捷氏

第405回　平成3年5月28日（火）

「イランの民間信仰」　　東京外国語大学教授　上岡　弘二氏

秋期　東洋学講座（共通テーマ；フィールドワークの現場から）

第406回　平成3年10月15日（火）

「清朝の檔案をめぐって
—中国史料調査の一例—」　　東洋文庫研究員
国士舘大学助教授　石橋　崇雄氏

第407回 平成３年10月22日（火）

「新疆の砂漠とオアシス
—ウイグル農村社会の過去と現在—」　東洋文庫研究員
立正大学教授　梅村　坦氏

第408回 平成３年10月29日（火）

「『天工開物』の竹紙製造技術
—実地調査の視点から—」　東洋文庫研究員
東京外国語大学
助教授　クリスチャン・
ダニエルス氏

特別講演会　（不定期）

第１回　平成３年５月21日（土）

「An Outline of The History and
Doctrine of rDzogs-chen」　フランス国立科学
研究所主任研究員　S. Karmay 氏

第２回　平成３年５月27日（月）

「Three Cultural Intermediaries
Between the East and the West:
Joao de Barros, Jao Rodrigues
Tsuzza, S. J., and Isaac Titsingh」　英国学士院会員　C. R. Boxer 氏

第３回　平成３年６月15日（土）

「イスラム史の中のアゼルバイジャン」　米国マサチューセッツ大学助教授　A. L.
Altstadt 氏

第４回　平成３年６月15日（土）

「中央アジアの英雄叙事詩」　米国ハーバード大学
中東研究所研究員　H. B.
Paksoy 氏

第５回　平成３年11月13日（水）

「中国蔵学研究中心について」　中国蔵学研究中心
総幹事　多杰才旦氏

第６回　平成３年11月22日（金）

「Political and Social Evolution of
Iran in the Later Middle Ages」　フランス国立科学
研究所教授　J. M.
Calmard 氏

第７回　平成３年12月４日（水）

「吐魯番出土墓碑及其研究概要」　中国新疆師範大学
教授　侯　燦氏

第８回　平成４年１月18日（土）

「呉三桂降闖史実考辨」　中国社会科学院歴史
研究所助理研究員　李　格氏

4. 研　究　会　（東洋文庫談話会）

・平成３年９月21日（土）
「アラブ勢力の拡大と北シリア山岳民
—ウマイヤ朝時代のジャラージマの活動—」　日本学術振興会
特別研究員　太田　敬子氏

・平成４年２月８日（土）
「清末中国における外国研究
—1887年の官員遊歴について—」　文部省内地研究員
佐賀大学助教授　佐々木　揚氏

・平成４年３月21日（土）
「父老攷—前漢末ないしは後漢期における変質を中心に—」　東洋文庫奨励研究員　久保田宏次氏

・平成４年３月28日（土）
「初期仏教教団における罪人の処罰手続」　私学内地研究員
国学院大学教授　白井　駿氏

5. 研究者養成

中国研究	久保田宏次	「中国社会の社会集団・塢壁の研究」
中央アジア研究所	荒川正晴	「唐代中央アジア地域の都市と交通の研究」
西アジア研究	松田俊道	「セント・カトリーヌ文書にもとづくズィンミーの研究」

6. 学術情報提供

i　研究者の交流及び便宜供与サービス

1)　国内研究者の受入

白井　駿	国学院大学法学部教授	「古代インドの刑事法学」（国学院大学の依頼）（平成３年度１ケ年）

佐々木　揚	文部省内地研究員 佐賀大学教育学部 助教授	「近代中国における日本論の史的展開」（文部省高等教育局の依頼）（平成３年度下半期間）
太田　敬子	日本学術振興会特別研究員	「諸民族の侵入とイスラム化の進行に伴う北シリアの社会構造の変化の文献学的研究」（平成２年度以降２ヶ年間）

2）外国人研究者の受入

王　　冀青	中国蘭州大学歴史系講師	「敦煌及び東トルキスタン出土文献の総合的研究」（平成３年７月以降10ヶ月間・日本学術振興会の招聘）
趙　　軍	華中師範大学歴史研究所副教授	「辛亥革命時期における日中関係史—特に孫文と日本の関係を中心にして—」（平成２年９月以降２ヶ年間・私費）
Tempa Gyaltsen	東洋文庫招聘研究員	「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」（平成元年５月以降・招聘中）
李　　格	中国社会科学院歴史研究所助理研究員	「清初の政治史および清初人物・伝記の研究」（平成２年２月以降２ヶ年間）（中国社会科学院歴史研究所の依頼・私費）
張　承志	中国作家協会理事	「中国イスラムに関する共同研究」（平成２年11月以降２ヶ年間）（東方学術交流協会の招聘）
Rebiya Tohti	全国人民代表大会民族委員会少数民族問題議案委員	「ウイグル族の歴史と文化」（平成３年度１ヶ年間・私費）

3）研究者の派遣

4）外国人研究者への便宜供与

Brunei

I. A. Mansurnoor　　Lecturer, Department of History, Univ. of Brunei Darussalam.

China（People's Republic）

劉　玉権　　敦煌研究院考古研究所副所長，副研究員

彭　金章　　〃　　副研究員

龔　書鐸　北京師範大学教授
張　　思　〃　〃
周　紹泉　中国社会科学院歴史研究所副研究員
高　明潔　中国中央民族学院教授
周　振鶴　復旦大学歴史地理研究所教授
徐　　鵬　〃　図書館館長，教授
鐘　敬華　〃　中文系教授
李　治安　南開大学歴史系教授
陳　乃雄　内蒙古大学教授
林　国忠　貴州社会科学院経済研究所副研究員
陳　祖恩　上海社会科学院歴史研究所講師
沈　　潔　華中師範大学歴史系副教授
叢　翰香　中国社会科学院近代史研究所研究員
劉　志琴　〃　〃　副研究員
孫　　猛　中国深圳大学副教授
李　澍田　吉林師範学院古籍研究所々長，教授
韋　慶遠　中国人民大学檔案学院教授
金　相春　北京師範大学歴史系教授
胡　如雷　河北省社会科学院歴史研究所研究員
張　傳璽　北京大学歴史系教授
侯　　燦　新疆師範大学歴史・考古学副教授
楊　一凡　中国社会科学院法学研究所副研究員
王　鳳嶺　遼寧省国有資産管理局員
宋　志勇　南開大学歴史研究所教授
鄒　逸麟　復旦大学歴史系教授
樊　樹志　〃　〃　〃
来　新夏　南開大学歴史系教授
陳　世松　四川省社会科学院歴史研究所研究員
賈　大昌　〃　〃　〃
周　啓乾　天津社会科学院日本研究所研究員
史　麗華　〃　〃　副研究員
馬　玉珍　〃　〃　〃
曹　貴林　中国社会科学院歴史研究所研究員
金　　海　内蒙古大学近現代史研究所研究員
王　暁秋　北京大学教授

張　永祕　上海華東師範大学教授

China（Taiwan）

曹　永和　国立台湾大学歴史学系教授
呉　宏一　中央研究院中国文哲研究所所長
林　慶彰　〃　副研究員
王　啓宗　台湾師範大学教授
葉　高樹　故宮博物院研究生
莊　吉発　〃　研究員
潘　淑碧　〃　〃
李　俊熙　国立政治大学歴史研究所教授
胡　国台　中央研究院近代史研究所副研究員
龔　煌城　〃　〃
林　麗月　国立台湾師範大学歴史学系教授
呉　哲夫　国立故宮博物院研究員

France

S. G. Karmay　Directeur de Recherche, Centre National des Recherches Scientifiques.
J. M. Calmard　Dr. Prof., Univ. of Paris and C. N. R. S.

Italy

G. Gnoli　Ord. Prof. at the Instituto Universitario Orientale (Naples)

Korea

姜　信沆　成均館大学校教授
金　世殷　〃　講師
鄭　良婉　韓国精神文化研究院教授
崔　貞煥　慶北大学校史学科副教授
王　泰雄　〃　〃　講師
李　性秀　韓国国立中央図書館々員
金　世顕　〃　〃
李　在善　〃　〃
朴　相国　韓国文化財専門委員
劉　共祚　慶熙大学校教授
徐　鍾学　嶺南大学校師範大学副教授
金　聖雨　延世大学校副教授
金　錫檍　釜山大学校教授

New Zealand	
P. Harrison	Dr., Senior Lecturer, Department of Philosophy and Religious Studies, Univ. of Canterbury.
Sweden	
G. Roger	Associate Prof., Lund Univ.
Thailand	
C. Choomwattana	Lecturer, Faculty of Social Science, Srinakharinwirot University.
U. K.	
C. R. Boxer	Research Prof., Member of the U. K. Academy.
U. S. A.	
黎　志剛	Associate Prof., Univ. of Utah.
R. P. Toby	Prof., Univ. of Illnois.
A. L. Altstadt	Associate Prof., Univ. of Massachusetts.
H. B. Paksoy	Researcher, Harvard Univ.
K. Meyer	Asst. Prof. Lafayette College, Department of History, Easton, Pennsylvania.
U. S. S. R	
Y. A. Petrosyan	Prof., Dr., Director of the Institute of Oriental Studies of the USSR Academy of Sciences (Leningrad Branch).
A. I. Semenov	Dr., Deputy Head, USSR Academy of Sciences, Department of Problems of World Economy and International Relations.
Vietnam	
Phan Dinh Nham	Dr., Director, Center for National Archive NO.II, Hanoi Univ.

ii　研究会等への会場提供サービス

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	7	14	30	17	4	17	26	17	19	33	47	47	278回
参加人員	160	368	340	214	40	227	433	204	220	257	517	477	3,457人

iii　研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス

東洋学報第72巻3・4号	500部
東洋学報第73巻1・2号	500部
近代中国研究彙報第13号	70部
東洋文庫欧文紀要第48号など4種	各50部

iv　参考情報提供サービス

1)　『東洋文庫年報』平成2年度版　　A5判　1冊　(刊行済)
2)　『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類目録・中国文II (附・索引)』
　　B5判　1冊　(刊行済) (近代中国研究委員会担当)
3)　『東洋文庫要覧 (1991—1992)』　　A4判　1冊　(刊行済)
(上記の出版については，2.「学術図書出版」に一括されているのでご参照されたい。)

※なお，《6．学術情報提供》における「図書資料の閲覧（協力）サービス」，「研究資料複写サービス」の事業報告については，『I．図書事業』の条項に便宜上掲載した。また，同じく「特定研究資料の収集」，「研究資料の補修再製本・製本」については，平成3年度とくに報告することはない。

7．職員の研究業績

期間：平成３年４月１日～平成４年３月31日まで

略号：①…著書　②…編書（共著）　③…論文　④…学会動向　⑤…書評・紹介　⑥…翻訳　⑦…講演・研究発表　⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

荒川　正晴

③「唐の対西域布帛輸送と客商の活動について」（東洋学報73―３・４，31～63頁，東洋文庫，1992年３月），「吐魯番・烏魯木斉周辺地域の史跡について」（内陸アジア史研究８，１～28頁，内陸アジア史学会，1992年３月），④「吐魯番出土文物研究会活動報告」（唐代史研究会会報４，29～33頁，唐代史研究会，1991年７月），⑦「唐代中央アジア地域の交通制度―駅伝制度導入をめぐる問題を中心として―」（唐代史研究会夏期シンポジウム，1991年７月７日，要旨：唐代史研究会会報５，５～７頁，1992年４月），「南疆遺跡参観報告」（内陸アジア出土古文献研究会，1991年９月21日），⑧「阿斯塔那・哈拉和卓古墳群墓葬一覧表」（中国吐魯番学学会研究通訊１，51～59頁，中国吐魯番学会秘書処，1991年６月），「南疆遺跡参観報告(1)」（吐魯番出土文物研究会会報70，１～６頁，吐魯番出土文物研究会，1991年11月），「寄語≪西域研究≫」（西域研究1991―４，125～126頁，新疆社会科学院主辦，1991年12月）。

池田　　温

②『講座敦煌５　敦煌漢文文献』（大東出版社，1992年３月，xv＋731頁），『中国礼法と日本律令制』（東方書店，1992年３月，viii＋509＋16頁），③「東亜年号管見――踏襲・模倣をめぐって」（東方学82，１～18頁，1991年７月），「契」（『講座敦煌５　敦煌漢文文献』，653～692頁，1992年３月），「敦煌漢文写本の価値――写本の真偽問題によせて」（『同上』，711～731頁，1992年３月），「唐令と日本令――〈唐令拾遺補〉編纂によせて」（『中国礼法と日本律令制』，165～193頁，1992年３月），「中国古代の租佃契(下)」（東洋文化研究所紀要117，61～131頁，1992年３月），④「魏晋南北朝時代」（増補）（『中国史研究入門』上巻，593～599頁，山川出版社，1991年11月），⑤「『敦煌』鮮明な図版でトータルに敦煌を紹介」（東方127，28～31頁，1991年10月），「『宮崎市定全集14　雍正帝』」（週刊読書人，1991年12月16日），「新中国における最初の日本学文献目録」（東方131，33～36頁，

1992年2月),「ウォルフラム・エーバーハルト, 大室幹男・松平いを子訳『中国文明史』」(東京新聞, 1992年3月1日),「岡野誠「唐戸婚律立嫡違法條について」」(法制史研究41, 1992年3月), ⑥王三慶「類書」(『講座敦煌5　敦煌漢文文献』, 355～400頁, 1992年3月), 何勁松「禅と書法芸術」(書学書道史研究1, 94～102頁, 1991年6月), ⑧「『日本国大木幹一所蔵中国法学古籍書目』序」(法律出版社, 3～5頁, 1991年5月),「玉井是博先生の遺稿ノート」(唐代史研究会会報4, 34～36頁, 1991年7月),「『東洋文化研究所の50年』まえがき」(東京大学東洋文化研究所, i～iii頁, 1991年11月),「『西川寧著作集4　西域出土晋代墨蹟の書道史的研究』解説」(二玄社, 327～341頁, 1991年12月),「西域出土肉筆資料と西川寧氏」(出版ダイジェスト, 1991年12月16日),「第1部会　敦煌・吐魯番研究」(東方学会報61, 6～7頁, 1991年12月),「『鎌倉遺文』のありがたさ」(『鎌倉遺文』パンフレット, 東京堂, 1991年12月),「『アジアの文化と社会』上巻序文」(汲古書院, 1～2頁, 1992年3月)。

石井　米雄

①『タイ仏教入門』(めこん, 1991年8月, 205頁), ②『講座東南アジア学第四巻　東南アジアの歴史』(弘文堂, 1991年4月, iv＋245頁),『講座仏教の受容と変容2　東南アジア編』(佼成出版社, 1991年12月, 261頁),『インドネシアの事典』(石井米雄監修, 同朋舎, 1991年6月, xvi＋600頁)。

石橋　崇雄

③「六部「成語類」(『同文彙集』所収) 満洲語索引 (吏部・戸部・礼部) ――『六部成語』総合索引への一環として――」(国士舘大学文学部　人文学会紀要24, 11～31頁, 1991年10月),「「礼部成語」(『清文備考』所収) 満洲語索引 (I～Y) ――『六部成語』総合索引への一環として――」(東京女学館短期大学紀要14, 15～21頁, 1922年3月),「『六條例』をめぐって――清朝八旗制度研究の一環として――」(『清朝と近代東アジア』, 85～96頁, 山川出版社, 1992年3月), ⑦「清朝の檔案をめぐって――中国史料調査の一例――」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1991年10月15日, 要旨：東洋文庫書報23, 33～36頁, 1992年3月), ⑧「清朝＝満族の社会と文化①――誥命と勅命」(歴史と地理429, 山川出版社, 1991年5月),「清朝＝満族の社会と文化②――満洲文字」(歴史と地理432, 山川出版社, 1991年8月),「清朝＝満族の社会と文化③――シャーマン教と神杆」(歴史と地理435, 山川出版社, 1991年11月),「清朝＝満族の社会と文化④――家祭における豚と神杆」(歴史と地理438, 山川出版社, 1992年2月),「満洲語夜話(二)」(『満学情報』2, 22～24頁, 満学研究後援会, 1991年11月),「満洲語を独習するための参

考文献(一)——文法書類」(満学情報２，17～18頁，満学研究後援会，1991年11月)。

梅村　坦

③「中国歴史博物館蔵≪吐魯番考古記≫所収回鶻文古文献過眼録」(中国歴史博物館館刊15—16，157～163頁，図版五—八，中国歴史博物館，1991年５月)，⑦「新疆の砂漠とオアシス——ウイグル農村社会の過去と現在——」(東洋文庫秋期東洋学講座，1991年10月22日，要旨：東洋文庫書報23，38～40頁，1992年３月)，「シルクロードの文化：民族と宗教を現地に見る」(立正大学文学部公開講座　群馬県邑楽郡邑楽町公民館，1991年10月26日)，「中央アジアを歩く——シルクロードの今昔——」(千葉県高等学校教育研究会，千葉女子高等学校，1991年12月３日)，「新疆南部農村における農産物の呼称について——中央アジア中世期以降の雑穀の変遷——」(日本沙漠学会第２回学術大会，東京大学山上会館，1991年12月７日)，⑧「中央アジア・新疆へ」(月刊しにか２—４，29～32頁，大修館書店，1991年４月)，「征服王朝の中国統治」，「遊牧民の社会と生活」，「トルコ系民族の活動」(『世界史テーマ学習80』，48～57頁，山川出版社，1991年６月)。

海野　一隆

③"Government Cartography in Sixteenth Century Japan" (Imago Mundi: The Journal of the International Society for the History of Cartography, 43, 86～91, London, 1991)，「無刊記『東海道路行之図』の異版」(月刊古地図研究22—６，２～５頁，日本地図資料協会，1991年８月)，「ハンブルク民族学博物館所蔵手書万国総図（無題）について」(同上22—８，２～５頁，1991年10月)，「異本の多い'漂民御覧之記'」(PINUS32号，13～18頁，雄松堂書店，1991年12月)，⑥「ジョゼフ・ニーダム『中国の科学と文明』(新版)第６巻，地の科学」(橋本敬造・山田慶児と分担訳，思索社，388頁，1991年10月)，⑦"Extant Maps of the Paddy Fields Drawn in the Eighth Century Japan" (14th International Conference on the History of Cartography, at Uppsala and Stockholm, 1991年６月16日)，⑧「釈漢代的翰海（辛徳勇訳)」(中国歴史地理論叢1991—１，161～166頁，陝西師範大学内同誌編集部，1991年３月)，「ありし一つの世界像——わが国の仏教系世界図——」(インペリアル92号，39～41頁，帝国ホテル営業企画室広報課，1991年５月)，「微に入り細を穿った地物の表現」(科学書院刊『日本列島二万五千分の一地図集成』出版案内≪推薦の言葉≫，1991年６月)，「地図の未来」(地図情報11—２・３，24頁，地図情報センター，1991年10月)。

小名　康之

③「フランソワ＝ベルニエの『ムガル帝国旅行記』をめぐって」（青山史学12，青山学院大学文学部史学科，55～84頁，1991年４月），⑧「ムガル時代のヒンドゥーとムスリム――ムガル帝国の支配構造」（世界史シリーズNo. 187，［解説］『世界史のしおり』，1991年／54号，帝国書院，1991年９月），「アーグラ」（坂田貞二編『都市の顔・インドの旅』，277～281頁，春秋社，1991年10月）。

太田　敬子

③「アラブ勢力の拡大と北シリア山岳住民――ウマイヤ朝時代のJarājimaの活動」（東洋学報73―１・２，27～54頁，東洋文庫，1992年１月），「ミルダース朝の外交政策」（史学雑誌101―３，１～41頁，1992年３月），「11世紀北シリア山岳部族の動向――Nasr b. Musaraf al-Rawadifiの活動について」（地中海学研究XIV，1992年５月），“Arab Expansion and Mountain Folk in Northern Syria”，(Orient XXVII, 1992)，④「回顧と展望――西アジア，イスラム時代」（史学雑誌100―５，302～304頁，1991年５月），「ムスリム―ビザンツ帝国抗争における北シリア山岳部住民の動向」（地中海学会第15回大会，1991年６月２日，要旨：地中海学会月報140，８頁，1991年５・６月），「アラブ勢力の拡大と北シリア山岳住民――ウマイヤ朝時代のJarājimaの活動」（東洋史談話会，1991年９月21日），「スグール征服史再考」（日本オリエント学会第33回大会，1991年11月10日）。

岡田　英弘

①『民族の世界史　III』（国際関係基礎研究所，1991年４月15日，39頁），『民族の世界史　IV』（国際関係基礎研究所，1991年７月31日，43頁），②『歴史のある文明　歴史のない文明』（樺山紘一・川田順造・山内昌之と共編，筑摩書房，1992年１月25日，６＋312頁），③「北アジアの民族史　“モンゴル民族”を創ったチンギス・ハーン」（『歴史群像シリーズ25　チンギス・ハーン　上巻』，36～39頁，学習研究社，1991年９月30日），「モンゴルの思想と風俗　大草原に生きた遊牧民の知恵と掟」（『歴史群像シリーズ25　チンギス・ハーン　上巻』，40～45頁，学習研究社，1991年９月30日），「バトゥが大西洋に達していたら……　十八世紀まで西ヨーロッパを統括」（『歴史群像シリーズ26　チンギス・ハーン　下巻』，92～95頁，学習研究社，1991年12月１日），「社会主義国家とモンゴル世界　ソ連も中国も帝国の継承国家だ」（『歴史群像シリーズ26　チンギス・ハーン　下巻』，96～99頁，学習研究社，1991年12月１日），“Origin of the Čaqar Mongols.”（*Mongolian Studies,* 14, *The Hangin Memorial Issue,* The Mongolia Society, pp. 155～179, 1991），「中国文明における歴史」（『歴史のある文明　歴史のない文明』，３～25頁，

筑摩書房，1992年１月25日），④「国際セミナー『モンゴル帝国とその遺産』」（アジア・アフリカ言語文化研究所通信72，54～59頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1991年７月25日），「第34回国際アルタイ学会」（アジア・アフリカ言語文化研究所通信73，62～68頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1991年11月25日）⑦「世界史の誕生」（六本木フォーラム，1991年５月29日），「民族の世界史　Ⅳ」（国際関係基礎研究所，1991年６月４日，全文：エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ，1991年７月31日），“The khan as the sun, the jinong as the moon.”（The 34th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Berlin, 1991. 7. 23.），「チンギス・ハーンの墓を探せ」（NHK Radio Japan, 1991年８月７日），“A comparison of the Manchu and Chinese texts of Emperor Ch'ien-lung's compositions on the Torguts. 清高宗御製土爾扈特詩文満漢文之比較”（第六届中国域外漢籍国際会議，台北，1991. 8. 30.），“The descendants of Jöchi Khasar in Altan Tobchi of Mergen Gegen. 墨爾根格根所撰『黄金史綱』中之拙赤合撒児後裔世系”（第六届亜洲族譜学術研討会，台北，1991.10. 4.），「世界史からみた現代東アジア」（国際関係基礎研究所，1992年２月７日），「国際誤解」（日本鉄鋼連盟労働部会，1992年２月21日），⑧「談話室」（文化会議268，９頁，日本文化会議，1991年10月１日），「私の近況」（東京新聞夕刊E版1991年10月７日号，２頁，中日新聞東京本社，1991年10月７日），「まえがき」（『歴史のある文明　歴史のない文明』，ⅰ～ⅵ頁，筑摩書房，1992年１月25日），「プロフィル　ハンス＝ペーター・フィーツェ教授」（アジア・アフリカ言語文化研究所通信73，12頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1992年３月25日）。

越智　重明

③「でこ廻しとひょうたん」（久留米大学比較文化研究科紀要２，25～128頁，久留米大学，1991年11月），「漢時代の王杖と復除」（久留米大学論叢40―２，１～30頁，久留米大学，1991年12月），「華夷思想の成立」（久留米大学比較文化研究所紀要10，久留米大学，1992年３月），「後漢時代の豪族」（東洋学報73―３・４，東洋文庫，１～29頁，1992年３月）。

風間喜代三

②『言語学大辞典第３・４巻　世界言語編下―１・２』「パーリ語」「プラークリット」執筆（三省堂，1992年１月），③「あし（foot と leg）について」（ライフサイエンス３，18～21頁，1992年，⑦「言語と文化――古代古典の教養について――」（群馬女子大学公開講座，1992年１月25日）。

川崎　信定

①『一切智思想の研究』（春秋社，1992年２月，562頁，文部省平成３年度科学研究費補助金・研究成果公開促進費），③「IDAṂ　SARVAM（この一切）を知るもの――アートマンを知るものとの関係――」，『前田専学博士還暦記念論集＜我＞の思想』（春秋社，pp. 5～16，1991年10月），「仏教から見た人間とその生き方――『チベットの死者の書（バルドゥ・トェ・ドル）』の現代人にとっての意味」（鈴木博雄編『人間の生き方の探求――近代から現代へ――』，図書文化社，pp. 146～152，1991年５月）。

神田　信夫

①『満学五十年』（刀水書房，1992年３月，289頁），⑦「清朝勃興期の城址」（九州中国学会大会学術講演，九州大学，1991年５月11日，要旨：東方学会報60，12頁，東方学会，1991年７月），「荻生徂徠の満文考と清書千字文」（第六回域外漢籍国際学術会議，1991年８月31日，台北，政治大学），⑧「散歩のすすめ」（帰れ自然ヘアルク315，４～５頁，日本万歩クラブ，1991年９月），「研究環境の改善に関して」（明治大学広報317，１頁，明治大学，1991年10月15日），「発刊の辞」，「初代会長三上次男先生の訃」（満族史研究通信創刊号，１・７頁，満族史研究会，1991年11月），「恭仁山荘と満洲語文献」（湖南12，11頁，内藤湖南先生顕彰会，1991年12月），「東洋史用語の解説」（『現代用語の基礎知識1992』，1160～1166頁，自由国民社，1992年１月）。

草野　　靖

③「両税法以降の主客戸制度」（下）（文学部論叢37，33～64頁，熊本大学文学部，1991年12月）。

久保田宏次

⑦「父老攷――前漢末ないしは後漢における変質を中心に――」（東洋文庫談話会，1992年３月21日）。

小松　久男

②羽田正・三浦徹編『イスラム都市研究：歴史と展望』（363頁：「中央アジア」266～310頁，東京大学出版会，1991年７月），⑤「アブラル・カリムッリン著『タタール人：エトノスとエトノニム』」（東洋学報72―３・４，122～129頁，1991年３月），⑥アブデュルレシト・イブラヒム著『ジャポンヤ：イスラム系ロシア人の見た明治日本』（410頁，第三書館，1991年12月），⑦"The　Turkic　Federalist

Party in Turkistan", (4th European Seminar on Central Asian Studies, Bamberg, October 8, 1991.),「ソ連邦の解体と中央アジア」(北海道大学スラブ研究センター1991年度冬期研究報告会, 1992年1月31日), "Andican Ayaklanması ve İşan", X. Türk Tarih Kongresi. Kongreye Sunulan Bildiriler, Ankara, 1991, pp. 911～915, ⑧「トルキスタンの抵抗と離散の歴史」,「ソ連中央アジアとイスラム」(山内昌之・民族問題研究会編『入門・世界の民族問題』, 日本経済新聞社, 1991年7月, 101～107頁),「中央アジア：ソビエト体制と対峙して生き続けた生活圏」(『朝日ジャーナル臨時増刊・ソ連の急転回と民族の激流』1991年10月, 38～41頁),「ウズベク語」,「カザフ語」(朝日ジャーナル編,『世界のことば』, 1991年10月, 174～177頁),「深層のイスラム・ソビエト(3)高貴なるブハラ」(朝日グラフ, 1991年10月, 74～75頁)「深層のイスラム・ソビエト(4)アンディジャンの人々」(朝日グラフ1991年11月, 66～67頁)。

後藤　明

②『事典　イスラームの都市性』(板垣雄三と共編, 亜紀書房, 1992年2月, 22＋766頁), ③「ムハンマド伝の史料に関する覚え書き――伝承（ハディース）について――」(東洋文化研究所紀要118, 東京大学東洋文化研究所, 149～181頁, 1992年3月), ⑤「岡正雄・江上波夫・井上幸治編『民族の世界史Ⅰ・民族とは何か』」(歴史と地理438, 山川出版社, 41～47頁, 1992年2月),「片倉もとこ著『イスラームの日常世界』」(民博通信55, 国立民族学博物館, 36～40頁, 1992年3月),「黒田壽郎著『イスラームの反体制――ハワーリジュ派の世界観』」(産経新聞・夕刊, 1991年9月), ⑦「都市のとらえ方についての提言――イスラームの都市性から」(都市文化科学研究センター研究会, 1991年5月27日),「中東とイスラム文明」(金沢経済大学経済学会公開学術講演会, 1991年10月2日),「イスラーム文明とヨーロッパ」(東海大学文明学会講演会, 1991年10月26日),「中東の歴史」(東久留米市市民大学, 1991年10月29日, 11月5日, 11月12日, 11月19日, 11月26日, 12月3日, 12月17日),「世界史におけるイスラム文明」(国士舘大学文学部講演会, 1991年11月13日),「イスラム文明とヨーロッパ」(調布市中央公民館国際理解講座, 1991年11月22日),「歴史研究と地域研究――中東研究の場合――」(東京大学東洋文化研究所創立五十周年記念特別講演会, 1991年11月30日),「7世紀アラビアの遊牧民考」(日本沙漠学会第2回学術大会, 1991年12月7日),「世界史におけるイスラーム文明」(第29回北海道高等学校教育研究大会, 1992年1月10日),「イスラムとの遭遇」(中東調査会文化講演会, 1992年3月30日), ⑧「イスラームそして都市的心性」(教育じほう521, 4～7頁, 東京都立教育研究所, 1991年6月),「マホメット『アッラーの預言者』アラビアの地に立つ」(プレジデ

ント1991年4月号，126～135頁，1991年4月），「イスラームは都市にはじまる」（都市文明イスラームの世界――シルクロードから民族紛争まで――，24～32頁，クバプロ，1991年9月），「地球規模での人類史の構築を目指して」（金沢経済大学論集25―3，53～70頁，金沢経済大学，1992年3月）。

佐伯　富

②『元豊官志索引』（平成2・3年度文部省科学研究費補助金［総合研究A］研究成果報告書・別冊，中嶋敏代表，『宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の研究』，東洋文庫，1992年3月，75頁），③「五代における中門使について」（平成2・3年度文部省科学研究費補助金［総合研究A］研究成果報告書，中嶋敏代表，『宋より明清に至る科挙・官僚制とその社会的基盤の研究』，5～12頁，東洋文庫，1992年3月），「中国中世における仏寺とその経済的背景」（書論27，1992年3月）。

佐藤　次高

②『世界史テーマ学習80』（共同監修，山川出版社，1991年6月，312＋5頁），③「中世西アジアの生活」（『中世の生活と技術』中世史講座9，40～64頁，学生社，1991年4月），「アラブ・イスラーム世界の都城――バグダードとカイロ――」（学術月報45―3，48～54頁，1992年3月），「歴史と民族」（『イスラム世界の研究』，45～82頁，財団法人国際金融センター，1992年3月），④"Recent Development in Chinese Islamic Studies: Survey of Research Institutions in Beijing, Lanzhou, and Quanzhou"（*Asian Research Trends*, No. 1, pp. 157～179, The Centre for East Asian Curtural Studies, 1991.），⑦「町の顔役」（第5回「大学と科学」公開シンポジウム，1991年2月12日，講演記録：『都市文明イスラームの世界』，133～141頁，クバプロ，1991年9月），「イスラム世界各地域の文化的ありさま：1　中国および中央アジア」（国際理解講座「八億の風を辿って」，調布市中央公民館，1991年11月1日），「イスラーム都市の魅力」（東京大学公開講座「都市」，1991年4月27日，講演記録：『都市』，147～170頁，東京大学出版会，1991年12月），⑧「サラディンと十字軍の戦い」（*Friendly*, vol. 120, No. 95, 8～12頁，ホテルニューオータニ，1991年），「ラマダーン月の砂糖」（UP225号，1～7頁，東京大学出版会，1991年3月），「序文」（史学会編『アジア史からの問い』，3～17頁，山川出版社，1991年11月），「書きたいテーマ・出したい本」（『出版ニュース』，19頁，1991年12月），「アラブの歴史家たちとの出会い」（中東研究No. 365, 12～15頁，中東調査会，1992年3月）。

酒井　憲二

②『歌舞伎評判記集成　第二期　第十巻』(共編，岩波書店，1992年２月，453頁)，③「『甲陽軍鑑』の方言」(調布日本文化２，19～35頁，調布学園女子短大，1992年３月)，「光大夫談話の伴信友筆記」(東洋文庫書報23，１～９頁，東洋文庫，1992年３月)。

斯波　義信

③「問い直される16—18世紀の世界状況」(濱下武志・川勝平太編『アジア交易圏と日本工業化1500—1900』，13頁，リブロポート，1991年６月)，「解説」(M・フリードマン著，末成道男・西沢治彦・小熊誠訳『東南中国の宗族組織』，22頁，弘文堂，1991年３月)，「宋代の消費・生活水準試探」(中国史学１，26頁，1991年10月)，⑦「前近代中国の消費と生産——宋代を中心に——」(第89回史学会大会講演，東京大学，1991年11月９日，要旨：史学雑誌100—12，２頁，1991年12月)。

杉山　正明

③「日本におけるモンゴル（Mongol）時代史研究」(中国史学１，211～231頁，1991年10月)。

関野　　雄

③「中国歴代の瓦当笵」(古文化論叢26，73～90頁，九州古文化研究会，1991年12月)，⑧「五十年前の北京を想う」(月刊しにか３—３，２～３頁，大修館書店，1992年３月)。

武田　幸男

②『朝鮮後期の慶尚道丹城県における社会態動の研究(I)』(学習院大学東洋文化研究所調査研究報告27，1991年３月，117＋98頁)，③「魏志東夷伝における馬韓」(馬韓百済文化12，17～48頁，韓国裡里，1990年12月)，「学習院大学蔵の丹城県戸籍とその意義」(学習院大学東洋文化研究所調査研究報告27，１～44頁，1991年３月)，⑧「広開土王碑」(『福知山高等学校資料室収蔵品目録』，福知山高等学校編，４～６頁，1991年３月)。

C．A．ダニエルス

③「17、18世紀東・東南アジア域内貿易と生産技術移転——製糖技術を例として」(濱下武志・川勝平太編『アジア交易圏と日本工業化1500—1900』，69～102頁，リブロポート，1991年６月10日)，“The taxonomic status of Saccharum barberi

Jeswiet and S. sinense Roxb." (*SUGAR CANE*, 1991. No. 3, pp. 11～16,), 「明末清初における甘蔗栽培の新技術――その出現及び歴史的意義――」(『清朝と近代東アジア (神田信夫先生古稀記念論集)』, 467～485頁, 山川出版社, 1992年3月30日), ⑤「濱下武志著『近代中国の国際的契機――朝貢貿易システムと近代アジア』」(東洋史研究50―3, 100～106頁, 1991年12月31日), ⑦「『天工開物』の竹紙製造技術――実地調査の視点から――」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1991年10月29日, 要旨：東洋文庫書報23, 40～42頁, 1992年3月), 「『天工開物』の竹紙製造技術――実地調査の視点から――」(アジア・アフリカ言語文化研究所・所内研究会口頭報告, 1991年10月30日, 要旨：アジア・アフリカ言語文化研究所通信74, 67～68頁, 1992年3月25日), ⑧「現地調査は好きだが……」(アジア・アフリカ言語文化研究所通信72, 9頁, 1991年7月25日), 「グルメと自然破壊は紙一重」(歴史と地理432, 38～39頁, 山川出版社, 1991年8月20日)。

竺沙　雅章

①『東坡集』(古典研究会叢書漢籍之部第16巻, 古典研究会, 1991年9月, 483頁), ③「陳垣与桑原隲蔵」(馮錦栄訳, 張其凡校訂, 歴史研究1991―3, 13～19頁, 中国社会科学出版社, 1991年6月), 「敦煌吐蕃期的僧官制度」(『第2届敦煌学国際研討会論文集』, 145～150頁, 漢学研究中心, 1991年6月), 「『開宝蔵』と『契丹蔵』」(『古典研究会創立二十五周年記念国書漢籍論集』, 611～634頁, 汲古書院, 1991年8月), 「寺院文書」(『敦煌漢文文献』, 585～652頁, 大東出版社, 1992年3月), 「宋代の士風と党争」(『中世史講座6　中世の政治と戦争』, 107～128頁, 学生社, 1992年3月), ⑦「敦煌文書の世界」(京都大学春季講義, 1991年6月19日), 「白蓮宗について」(日中第4回仏教学術会議, 1991年10月14日), 「吐蕃期の敦煌文書」(羽田記念館秋季講演会, 1991年11月16日), ⑧「『高僧伝』の資料」(『大乗仏典中国・日本篇14　高僧伝』月報20, 1～4頁, 中央公論社, 1991年5月), 「宮崎先生の授業」(『宮崎市定全集』第3巻月報, 4～8頁, 岩波書店, 1991年12月)。

千葉　　栄

③「南宋謝皇后覚書」(桐朋学園女子部研究紀要7, 1～18頁, 桐朋教育研究所, 1992年3月)。

趙　　軍

①『辛亥革命与大陸浪人』(中国大百科全書出版社, 1991年4月, 305頁), 『国外辛亥革命史研究綜覧』(章開沅等と共著, 湖北教育出版社, 1991年8月, 445頁),

③「中国関係における久原房之助」（アジア文化16，148～167頁，アジア文化総合研究所，1991年６月），「『吾人之大亜洲主義』辯――再論孫中山和大亜洲主義――」（華中師範大学学報（哲学社会科学版）1991年増刊，『紀念辛亥革命八十周年論文集』，150～162頁，華中師範大学学報編集部，1991年９月），⑥マリアナ・パスティー「清末赴欧的留学生們」（張富強と共訳，辛亥革命史叢刊８，189～202頁，中南地区辛亥革命研究会・武昌辛亥革命研究中心編，中華書局，1991年９月），上村希美雄「従対陽館所蔵史料看興漢会的成立」（辛亥革命史叢刊８，222～234頁，中南地区辛亥革命研究会・武昌辛亥革命研究中心編，中華書局，1991年９月）。

張　　承志

①『紅衛兵の時代』（岩波新書，1992年４月），⑤「隠された中国イスラム教の秘密資料――『ラシュフ』」（東洋学報73―１・２，77～82頁，東洋文庫，1992年１月），⑦「スーフィズム――黄土高原の希望」（東洋文庫春期東洋学講座，1991年５月14日，要旨：東洋文庫書報23，31～32頁，1992年３月），⑧連載「紅衛兵の時代」（世界1991年７月～10月）。

鶴見　尚弘

⑥唐文基著「明清時代福州地方，土地典売文書の研究――福建師範大学歴史系収蔵，経済文書の一研究――」（東洋学報72―１・２，29～51頁，東洋文庫，1990年12月），⑧「万里の長城は月から見える」（Quark1992―３，82～93頁，講談社）。

杤尾　　武

③「踊り字考」（国語科通信81，角川書店，1991年10月），「『玉造小町子壮衰書』拾穂の記」（成城国文学８，成城国文学会，1992年３月）。

鳥海　　靖

①『日本近代史――国際社会の中の近代日本』（放送大学教育振興会，1992年３月，211＋３頁），②『国史大辞典』第12巻（共編，吉川弘文館，1991年６月，892頁），『日本史総合辞典』（林陸朗・高橋正彦・村上直氏と共編，東京書籍，1991年11月，1035頁），③「福沢諭吉の立憲政治論――官民調和論との関連を中心に――」（福沢諭吉年鑑18，82～101頁，福沢諭吉協会，1991年12月），⑤「＜対談書評＞歴史の語り部として――司馬遼太郎著『明治という国家』」（粕谷一希『歴史の語み方』，３～27頁，筑摩書房，1992年１月），⑦「伊藤博文と立憲政治の確立」（国立教育会館，1991年６月19日・７月３日），「歴史教育と人物学習」（福島

県教育センター，1991年11月６日），⑧「歴史を＜内側＞から理解する」（教員養成セミナー14―４，８～11頁，時事通信社，1991年12月）。

中嶋　敏

②「加藤繁著『中国貨幣史研究』」（監修，東洋文庫，1991年12月，465頁），『宋史選挙志訳註（一）』（監修，東洋文庫，1992年３月，８＋347＋61頁），③「宋玉牒考」（『古典研究会創立二十五周年記念国書漢籍論集』，591～609頁，汲古書院，1991年８月），「偽帝姫考」（東洋研究103，39～52頁，大東文化大学東洋研究所，1992年３月），④「東洋学の系譜――市村瓚次郎」（月刊しにか２―10，大修館書店，1991年10月）。

花田　宇秋

⑤「『マムルーク』」（オリエント34―１，155～156頁，日本オリエント協会，1991年９月），⑦「イスラム史におけるイスラム・スペイン」（地中海学会，1991年４月27日，上智大学），「続アラブを考える――宗教と政治――」（朝日カルチャーセンター横浜，５月16日），「言葉の旅――アラビア語――」（港区区民公開講座，６月25日，明治学院大学，要旨：明治学院大学公開講座報告書，1992年３月１日），「≪別離の巡礼≫における預言者ムハンマドの説教に関する史料の異同について」（日本オリエント学会第37回大会第三部会，1991年11月10日，要旨：オリエント34―２，日本オリエント協会）。

原　實

③「『泡』――upadeśasāhasrī 2. 1. 19 によせて――」（『前田専学博士還暦記念論集 ＜我＞の思想』，429～447頁，春秋社，1991年10月），⑤「Jens-Uwe Hartmann〔Hasg. u. Übers.〕: Das Varṇārhavarṇastotra des Mātṛceṭa」（*Sanskrittexte aus don Turfanfunden*, Ⅻ. Göttingen : Vandenhoeck & Ruprecht 1987 in Orientalistische Literaturzeitung 86（1991）3, pp. 313～318），「『J. A. B. van Buitenen のインド文学哲学論集』」（東洋学報73―３・４，025～031頁，東洋文庫，1992年３月），⑦「古代インドの無数の表現」（神戸学院大学人文学部，1991年11月19日），⑧「Yutaka Ojihara（16 March 1923―8 February 1991）」（*Indo-Iranian Journal* 34　No. 4（October 1991）, pp. 277～280），「大地原豊氏の逝去を悼む」（JJASAS　南アジア研究３，179～181頁，1991年10月）。

藤枝　晃

①『文字の文化史』＜同時代ライブラリー83＞（岩波書店，1991年10月15日第１刷，

12+293頁)，② “Future Problems of the researches on Chinese Buddhist manuscripts from Turfan” (Ägypten, Vorderasien, Turfan, Probleme der Edition und Bearleitung altorientalischer Handschriften. Tagung in Berlin, Mai 1987. Schriften und Kultur des Alten Orient 23, Berlin, Zentralinstitut für Alte Geschichte und Archöologie, 1991, pp. 155～160)，「李柏文書」(『佛教東漸祇園精舎から飛鳥まで』，82～107頁，龍谷大学三五〇周年記念学術企画出版編集委員会編，思文閣出版，1991年12月)，「大谷コレクションの現状」(同書，218～231頁)，⑦「大谷探検隊とその収集品」(石川県立歴史博物館記念講演，1991年4月21日，概要：『北国新聞』4月24日)，「西域学の課題」(京都考古資料館第50回講演会，1991年10月)，⑧「西域学の課題」(京都新聞，7頁，“佛教東漸”47回，研究ノート2，1991年11月25日)。

星　實千代

①『エクスプレス　チベット語』(白水社，1991年7月，170頁)。

松田　俊道

③ “A note on Nomads in Southern Sinai” (ORIENT　vol. XXVII, 1991. 3.)，⑤「『マムルーク――異教の世界からきたイスラムの支配者たち――』」(史学雑誌100―7，101～102頁，史学会，1991年7月)，「『ヨーロッパのヘゲモニーが確立する以前の13世紀世界システム』」(日本中東学会年報7，531～533頁，日本中東学会，1992年3月)，⑦「マムルーク朝時代上エジプトにおけるウルバーンとファッラーフの反乱について」(イスラム国家論研究会，1992年2月3日)。

三浦　　徹

②『イスラム都市研究：歴史と展望』(羽田正と共編，東京大学出版会，1991年7月，363頁)，③「オスマン朝時代のシリア史研究：A．K．ラーフェク氏の法廷文書研究を中心に」(お茶の水史学34，95～105頁，1991年4月)，「アラブ（2）マシュリク」，「都市研究の再構築にむけて」(羽田正・三浦徹編，『イスラム都市研究：歴史と展望』，80～161頁，312～327頁，東京大学出版会，1991年7月)，「イスラーム都市研究再考」(学術月報45―2，151～155頁，1992年2月)。

御牧　克己

②“Annotated translation of the chapter on the Yogācāra of the Blo gsal grub mtha’,” (京都大学文学部紀要31，1～49頁，1992年3月)。

矢澤　利彦

③「L'évolution du Shidian, le culte de Confucius」("Confucianisme et Sociétés asiatiques," p39～51, L'Harmattan, 1991, Paris),「Le culte des guishen en Chine et Catholicisme」("Cultes populaires et Sociétés asiatiques", pp. 39～57, L'Harmattan, 1991, Paris)。

山内　弘一

③「工匠の行方――丹城県戸籍大帳による生鉄匠・水鉄匠の事例研究――」(『朝鮮後期の慶尚道丹城県における社会動態の研究（Ⅰ)』, 武田幸男編, 学習院大学東洋文化研究所調査研究報告27, 45～78頁, 1991年３月),⑦「李朝知識人のみた清朝の思想統制策――『熱河日記』管見――」(上智大学史学会第41回大会, 1991年11月),⑧「日韓文化交流」(ソフィア40―４［通巻160号], 15～45頁, 上智大学, 1992年１月)。

山崎　元一

③「古代インドの王権――ヒンドゥー法典類を史料として――」(国学院大学紀要30, 85～117頁, 国学院大学, 1992年３月),⑧「古代のインド人と森林」(真理と創造32, 75～82頁, 中央学術研究所, 1991年12月)。

山根　幸夫

②『近代日中関係史研究入門』(藤井昇三, 中村義, 太田勝洪共編, 研文出版, 1992年２月, 468頁),③「古典研究会本『皇明制書』「大誥」対校表」(汲古19, 54～60頁, 汲古書院, 1991年６月),「郭子章の『城書』について」(古典研究会編『古典研究会創立二十五周年記念国書漢籍論集』, 汲古書院, 635～657頁, 1991年８月),「近二, 三年間日本的明史研究」(明史研究論叢５, 498～506頁, 江蘇古籍出版社, 1991年５月),「総説」(『近代日中関係史研究入門』, １～12頁, 1992年２月),「日中文化交流」(『近代日中関係史研究入門』, 405～455頁, 1992年２月),⑤「湯明檖・黄啓臣編『紀念梁方仲教授学術討論会文集』」(東洋学報73－１・２, 63～69頁, 東洋文庫, 1992年１月),「李玉・劉玉敏・張貴来主編『中国日本学論著索引1949～1988』」(東洋学報73―１・２, 82～86頁, 1992年１月),「中国譜牒学会編『譜牒学研究第２輯』」(東洋学報73－３・４, 161～166頁, 東洋文庫, 1992年３月),⑦「最近十年間日本的明史研究」(国際明清史学術討論会, 1991年７月10日, 南開大学),「＜満州＞建国大学与日本」(天津社会科学院歴史研究所, 1991年７月13日),「吾的明史研究四十五年的回顧」(第４届国際明史学

術討論会，松江県紅楼賓館，1991年８月21日），⑧「朱士嘉先生を偲ぶ」（明代史研究19，１～４頁，明代史研究会，1991年４月），「創刊祝辞」（『明史研究』創刊号，３～４頁，中国明史学会，1991年９月），「近代日中関係史年表」（『近代日中関係史研究入門』，457～465頁，研文出版，1992年２月），「序言」（鄭海麟・張偉雄編『黄遵憲文集』，１～３頁，中文出版社，1991年10月），「序言」（張学文著『明清社会経済史研究』，５～６頁，稲禾出版社，1991年12月），「第二届国際明清史学術討論会」（東洋学報73―１・２，87～92頁，1992年１月），「第四回国際明史学術討論会に参加して」（東洋学報73―３・４，167～173頁，1992年３月），「1990年明代史論文目録」（明代史研究19，１～４頁，明代史研究会，1991年４月），「1990年韓国明清史論文要目」（明代史研究19，61～62頁，1991年４月），「編集後記」（汲古19，61～62頁，汲古書院，1991年６月），「編集後記」（汲古20，71～72頁，1991年12月）。

柳田　征司

①『室町時代語資料による基本語詞の研究』（武蔵野書院，1991年７月，404頁），③「辞書・事典に連続する抄物群――詩文作成のための抄物の場合――」（『辞書・外国資料による日本語研究』，115～133頁，和泉書院，1991年８月），「音韻変化の法則を認定する上で問題となる語の若干について」（語源研究20，18～23頁，1991年12月），「『修行者あひたり』型表現の定義と範囲」（愛媛国文と教育23，１～９頁，1991年12月），「臨済系『碧巌録抄』の諸本にいて」（愛媛大学教育学部紀要第II部人文・社会科学24―２，57～70頁，1992年２月），「大応派の『臨済録抄』について」（財団法人松ケ岡文庫研究年報６，37～74頁，1992年３月）。

和田　博徳

⑦「中国における売官制度の成立――明代捐納制度の展開――」（創価大学文学部人文学科研修旅行，忍野富士急ホテル大会場，1991年５月９日），「明代地方官の長期存在について――その民衆に与えた影響――」（創価大学アジア研究所第３回研究会，1991年10月１日），⑧「人文学（哲学・史学）についての管見」（創価大学人文論集３，１～３頁，創価大学文学部，1991年４月）。

渡辺　　宏

⑧「ポーロ」（『国史大辞典』第12巻，686頁，吉川弘文館，1991年６月），「マルコ・ポーロと東西交流――東と西を結んだ大旅行家の虚と実」（『歴史群像シリーズ26　チンギス・ハーン　下巻』，156～161頁，学習研究社，1991年12月）。

渡辺　紘良

③「宋史選挙志・科目訳註」（中嶋敏編『宋史選挙志訳註(一)』，228～283頁，東洋文庫，1992年３月），⑦「南宋初の招安政策について――范汝爲の場合――」（北京国際宋史研究会，1991年８月11日）。

財団法人東洋文庫 東洋学講座開催略年表

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
	T.15年			
1	5月6日～6月24日（8講）	漢魏時代の西域	東洋文庫常務理事 帝国学士院会員 文学博士	白鳥　庫吉
2	10月14日～12月2日（8講）	道家の思想と其の展開	東洋文庫研究員 早稲田大学教授 文学博士	津田左右吉
	S.2年			
3	2月10日～3月3日（4講）	漢魏時代の服飾に就いて	東洋文庫研究員 東京帝国大学助教授	原田　淑人
4	5月17日～6月28日（7講）	アイヌ文化概説	東京帝国大学助教授	金田一京助
5	10月13日～12月8日（9講）	極東諸民族の古伝説に就いて	（前出）	白鳥　庫吉
	S.3年			
6	5月10日	中央亜細亜新発見の亀茲語に就いて（Notes sur la langue de Kuča découverte en Asie centrale）	Prof. au Collége de France	Sylvain Lévi
7	5月19日・26日	西域史雑観	東洋文庫研究員 京都帝国大学教授 文学博士	羽田　亨
8	10月11日～11月20日（5講）	漢籍に見えたる我が国上代史	（前出）	白鳥　庫吉
	S.4年			
9	4月4日～25日（4講）	タイ民族より見たる支那古代史（Les T'ai et l'histoire de la Chine ancienne）	Prof. au Collége de France	Henri Maspéro
10	5月23日・24日	東亜考古学研究方法に就いて	東洋文庫研究員 京都帝国大学教授 文学博士	濱田　耕作
11	6月6日～27日（4講）	仏教東漸史上の難問題	（前出）	白鳥　庫吉

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
12	10月10日～12月8日(8講)	支那経済史概説	東洋文庫研究員 東京帝国大学教授 文学博士	加藤　繁
	S.5年			
13	5月22日～7月3日(7講)	支那古代史の批判	東洋文庫常務理事 帝国学士院会員	白鳥　庫吉
14	10月2日～11月20日(9講)	元寇の新研究、特に弘安の役に就いて	東洋文庫研究員 東京帝国大学教授 文学博士	池内　宏
	S.6年			
15	3月19日・26日	拂菻問題の新解釈	(前出)	白鳥　庫吉
16	5月7日～6月23日(8講)	近代蒙古史概説	東洋文庫研究員 東京帝国大学助教授	和田　清
17	10月1日～11月19日(8講)	左伝の思想史的考察	東洋文庫研究員 早稲田大学教授	津田左右吉
	S.7年			
18	5月26日～6月23日(5講)	漢以前の文化に就いて	東洋文庫研究員 東京帝国大学助教授	原田　淑人
19	11月17日～12月8日(4講)	蒙古史上に於ける最近の諸発見	東洋文庫主事	石田幹之助
	S.8年			
20	2月27日	バミアン及びその附近に於ける仏教美術に及ぼせるイランの影響に関する問題 (Les influences de l'Iran sur l'art bouddhigue de Bāmiyan et ses environs)	Pres. de Musée Guimet	Joseph Hackin
21	3月3日	マホメット教に及せる仏教の影響 (The influence of the Buddhism upon Mahommedanism)	Orientalist, Hungary	Dr. Felex Bali
	S.9年			
22	10月4日～12月6日(10講)	満洲国を中心とせる極東史概説	(前出)	白鳥　庫吉
	S.10年			
23	5月2日・9日	支那制度沿革上の三特色	(前出)	和田　清

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
24	5月16日・23日	渤海史上の難問題	東洋文庫常務理事 帝国学士院会員	白鳥　庫吉
25	5月30日・6月6日	元代シャマン教に就いて	東洋文庫図書館副主事	岩井　大慧
26	6月13日・20日	上代支那人の思惟の仕方に就いて	東洋文庫研究員 早稲田大学教授	津田左右吉
27	6月27日	璧琉瑠考	東洋文庫研究員 東京帝国大学助教授	原田　淑人
28	10月3日・10日	支那帝王伝説に対する一考察	東洋文庫研究部員	出石　誠彦
29	10月14日・15日	満洲赤峰の考古学的調査 A赤峰紅山の発掘 B霊峰院の石窟寺	東洋文庫研究員 京都帝国大学教授	濱田　耕作
30	10月18日・19日	蒙古の幹脱銭に就いて	東洋文庫研究員 京都帝国大学教授	羽田　亨
31	10月24日・31日	宋の貨幣政策と西夏の入寇	東洋文庫研究員 東京帝国大学教授	加藤　繁
32	11月7日・14日	高句麗王家の系図に就いて	東洋文庫研究員 東京帝国大学教授	池内　宏
33	11月21日・28日	言語上より見たる日本民族	(前出)	白鳥　庫吉
	S.11年			
34	10月22日・23日	How Eastern Asiatic Art import in Dark Age through Central Asia	Director, Francis Hopp Museum of Asiatic Arts, Budapest, Hungary	Dr.Zoltan de Tahacs
35	11月26日・12月3日・10日	アイヌ民族の原住地域に就いて	(前出)	白鳥　庫吉
	S.12年			
36	5月20日・27日	金石文の史料的価値	早稲田大学教授 文学博士	会津　八一
37	6月3日・10日	支那に於ける紙幣の歴史	(前出)	加藤　繁
38	6月17日	明初に於ける女直社会の変遷	東洋文庫研究員 東京帝国大学教授	和田　清

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
39	10月7日・13日・14日	中央亜細亜史上の一人種問題	東洋文庫常務理事 帝国学士院会員	白鳥　庫吉
40	10月20日・21日	楽浪遺蹟調査の成果	京都帝国大学助教授	梅原　末治
41	10月28日・11月4日	支那古代の占星学	慶応義塾大学教授	橋本　増吉
	S.13年			
42	5月5日・12日	楽浪の土城について	東洋文庫研究員 東京帝国大学助教授	原田　淑人
43	5月19日	朝鮮語の方言について	東京帝国大学教授 文学博士	小倉　進平
44	5月19日・6月2日	北宗禅について	東京帝国大学教授 文学博士	宇井　伯寿
45	10月13日	日本国号私見	東洋文庫図書館副主事	岩井　大慧
46	10月20日・21日	易と中庸	東北帝国大学教授 文学博士	武内　義雄
47	10月27日	康有為の思想について	東洋文庫研究部員	出石　誠彦
48	11月10日・17日・24日	東西交渉史概論	(前出)	白鳥　庫吉
	S.14年			
49	5月25日	支那養子法の史的変遷	東方文化研究員 法学博士	仁井田　陞
50	6月1日	ヴェーダ学の今昔	東京帝国大学助教授	福島直四郎
51	6月8日・15日・22日・29日	山丹・奴児干を論じて樺太島三民族の史的考察に及ぶ	(前出)	白鳥　庫吉
52	11月2日・9日	蒙古及び突厥両民族の起源	東洋文庫研究部長 東京帝国大学名誉教授	白鳥　庫吉
53	11月16日・24日	支那主要産業の発達について	東洋文庫研究員 東京帝国大学教授	加藤　繁
54	11月30日・12月7日	日本美術と支那美術	美術研究所長	矢代　幸雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
	S.15年			
55	6月6日・7日	遼金時代の建築	京都帝国大学教授	村田　治郎
56	6月13日・20日	李鴻章とその時代	東洋文庫研究員 東京帝国大学教授	和田　清
57	10月24日・31日・11月7日	支那歴代板本の特徴	東京帝国大学講師	長澤規矩也
58	11月14日・21日	漢初の思想	東洋文庫研究員 慶応義塾大学教授	橋本　増吉
59	11月28日	落花生の支那移植年代について	東洋文庫主事	岩井　大慧
	S.16年			
60	5月15日・16日	南洋日本人発展史	台北帝国大学教授	岩生　成一
61	5月29日	東京（トンキン）及び北安南に於ける銅鼓	印度支那遠東学院教授	Victor Goloubew
62	6月5日・12日・19日	漢魏時代に於ける樂浪郡と其の郡治及び属県	東洋文庫研究員 東京帝国大学名誉教授	池内　宏
63	6月26日・7月3日	間島、牡丹江両省に於ける渤海遺蹟調査	京城帝国大学教授	鳥山　喜一
64	10月30日・11月6日	殷初史伝の批判	東洋文庫研究員	出石　誠彦
65	11月13日・14日・15日	六朝駢文史大要	京都帝国大学名誉教授	鈴木　虎雄
66	11月20日・27日	儀礼及び礼記に於ける家族と宗教	東方文化学院研究員	牧野　巽
	S.17年			
67	5月28日・29日	章学誠——其人と其学	東北帝国大学教授	岡崎　文夫
68	6月4日・11日	唐代の㮈林国について	東洋文庫研究生 第1高等学校教授	榎　一雄
69	6月18日	モン民族に関する歴史的研究——特にDvaravati——	東京帝国大学助教授	山本　達郎
70	10月8日	唐代に於ける西域の理想郷	（前出）	榎　一雄
71	10月15日	周代の蛮貊について	東洋文庫研究員	和田　清

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
72	10月22日	南宋の再造と都督張浚	東洋文庫研究員	加藤　繁
73	10月29日	礼記の月令について	東洋文庫研究員	橋本　増吉
74	11月5日	シナに於いて無量寿仏の名の用いられたことについて	東洋文庫研究員	津田左右吉
75	11月12日	食物本草について	東洋文庫主事	岩井　大慧
76	11月19日	山東省曲阜の発掘	東洋文庫研究員 東京帝国大学教授	原田　淑人
77	11月27日	支那民族の保守性と同化性の再検討	東洋文庫研究員 京都帝国大学総長	羽田　亨
	S.18年			
78	6月3日・4日	考古学上より見たる北部仏印の古代文化	京都帝国大学教授	梅原　末治
79	6月10日・17日・24日	論語の成立について	東洋文庫研究員	津田左右吉
80	7月1日	黄承吉とその小学説	東京帝国大学教授 京都帝国大学教授	倉石武四郎
81	7月2日	成吉思汗の即位と巫覡	東洋文庫主事	岩井　大慧
82	10月7日・14日	匈奴に関する二三の問題	民族研究所研究員	江上　波夫
83	10月28日・29日	清朝法制史料解題	建国大学教授 法学博士	瀧川政次郎
84	11月4日・11日・18日・25日	支那経済史雑考	東洋文庫研究員 文学博士	加藤　繁
	S.19年			
85	5月10日・11日	支那に於ける貞操神判の一形式	学習院大学教授 亜細亜文化研究所長	白鳥　清
86	5月17日・18日	中世ペルシャの新年とその習俗の東方伝播	東洋文庫研究生 第1高等学校教授	榎　一雄
87	5月24日・25日	西南支那の開発に就いて	東京帝国大学教授 文学博士	和田　清
88	10月11日・12日	宋代の大秦国に就いて	(前出)	榎　一雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
89	10月18日・19日	漢蒙交界地方に於ける農牧限界線の移動とその地理的意義	東京帝国大学助教授 理学博士	多田　文男
90	10月25日・26日	荘子の知	東方文化学院研究員	板野　長八
	S.24年			
91	10月13日	輓近仏国に於ける東洋学研究の状況と成果	仏国立博物館総裁	Dr. René Grousset
	S.25年			
92	10月10日	ホラズム遺蹟発掘の成果	Chief. Harvard—Yenching Institute	Dr. S. Elisse'eff
	〃	エフタル民族の起源	東洋文庫研究員 東京大学助教授	榎　一雄
	S.30年			
93	5月22日	『大月氏および貴霜について』とその後の発展	(前出)	榎　一雄
94	6月7日・9日	甲骨文字より見たる古代暦法について	中国歴史語言研究所長	董　作賓
95	10月10日	西蔵史研究史上における新獲史料について	Prof. Università di Roma	Giuseppe Tucci
	S.31年			
96	6月26日	中国における中国史研究の現状——主として均田・租庸について——	中央大学教授	鈴木　俊
97	6月27日	欧米における東洋学研究の現状	東洋文庫研究員 東京大学教授	山本　達郎
98	10月23日・30日	朱印船貿易に関する諸問題	東洋文庫研究員 東京大学教授	岩生　成一
99	11月7日・14日・21日	インド古代史上の二三の問題	東京大学教授	三上　次男
	〃	南アジアにおける遺跡調査の状態	〃	〃
	〃	西アジアにおける諸遺跡の現状	〃	〃
	S.32年			
100	5月20日・21日・22日・23日	殷墟と殷墓——それを通じて見た殷代の文化——	京都大学名誉教授 東洋文庫研究部顧問	梅原　末治

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
101	6月21日・22日	乾燥地域における水の問題——オリエントを中心に——	東京大学講師	小堀　巖
102	10月2日・3日	文明の起原の問題とテル・サラサートの発掘	東京大学教授	江上　波夫
103	10月9日	イラン・イラクを旅して——ジッグラトめぐり——		三笠宮崇仁
104	10月16日	胡人牽馬像についての雑感	日本学士院会員 東洋文庫研究部顧問	原田　淑人
105	10月23日	中国の博物館を巡って	東京大学助教授 東洋文庫研究員	関野　雄
106	11月6日	ジャヴァの古代史について	Prof. Leiden State University	C.C. Berg
107	11月13日	前コロムビア文化に対するアジア文化の影響	Prof. Universität Wien	R. Heine-Geldern
108	11月20日	オーストラリアに於ける古文書館について	Director. National Library of Australia	N.L. White
109	12月3日	自由討論会——ベルリン自由大学教授W.フックス氏を囲んで		
	S.33年			
110	5月21日・28日	最近の考古学上の一、二の問題について	東京芸術大学教授 東洋文庫東洋学連絡委員会委員	藤田　亮策
111	6月4日	インドの母系制社会について	東京大学講師	中根　千枝
112	6月11日	殷文化の起源	Prof. Cambridge University	鄭　徳坤
113	6月18日	マルコ＝ポーロに続いた人々	東京大学教授 東洋文庫研究部長	榎　一雄
114	6月25日	蒙古人の英雄叙事詩	Prof. University of Washington	N. Poppe
115	10月15日	起信論の諸問題	サンチニケタン大学教授	W. Liebenthal

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
116	10月22日・23日	インドシナ民族を尋ねて	慶応大学教授 東洋文庫東洋学連絡委員会委員	松本　信廣
117	10月29日・11月5日	高麗の府兵制と李朝初期の兵制	学習院大学教授 東洋文庫研究員	末松　保和
118	11月12日	キダーラ王朝の年代について	(前出)	榎　一雄
	S.34年			
119	5月20日	世界史における東アジア	Prof. Oxford Univesity	G.F.Hudson
120	5月27日	外政機構・外交文書・外交史研究——アロー戦争を中心として——	東京都立大学教授 東洋文庫近代中国研究委員会委員	坂野　正高
121	6月3日	『宋史』食貨志の訳註とその基本資料	東京大学教授 東洋文庫宋史提要編纂協力委員会委員	周藤　吉之
122	6月10日	成立期における郡県制と官僚制	一橋大学教授	増淵　龍夫
123	6月17日	長沙の出土品より見たる楚国の文物	東京大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原　末治
124	6月24日	朝鮮語の母音調和	東京教育大学教授 東洋文庫研究員	河野　六郎
125	10月7日	中国刑法史研究の今昔	東京大学教授 東洋文庫東洋学連絡委員会委員	仁井田　陞
126	10月14日	辛亥革命時期の武漢	お茶の水女子大学教授 東洋文庫近代中国研究委員会委員	市古　宙三
127	10月21日	中国における近代産業資本の形成について	名古屋大学助教授 東洋文庫近代中国研究委員会委員	波多野善大
128	10月28日	五代・宋における南方の新興官僚——とくに系譜を中心として——	横浜市立大学教授 東洋文庫宋史提要編纂協力委員会委員	青山　定雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
	S.35年			
129	5月11月	ホロズテペ遺跡の発掘	アンカラ考古学博物館長	ラージ＝テミゼル
	〃	トルコの表紙装釘技術	イスタンブール回教博物館長	Kemal çığ
130	5月18日	財団法人東洋文庫創立35周年記念講演		
	〃	一般に知られざる東洋文庫の蔵書について	日本大学教授	石田幹之助
	〃	わが東洋文庫の業績を顧みて	日本学士院会員 東洋文庫研究顧問	原田　淑人
131	5月25日	東南アジア銅鼓観	京都大学名誉教授 東洋文庫研究顧問	梅原　末治
132	6月1日	古代中国西域交渉史の一側面	東京大学教授 東洋文庫研究部長	榎　一雄
133	6月8日	仏像の起源論をめぐって	東京国立文化財研究所研究員	高田　修
134	6月15日	ウィグル文契約文書、特に消費貸借文書について	東京大学助教授 東洋文庫研究員	護　雅夫
135	10月5日	北方民族の奇習ジャダに就いて	国立国会図書館支部東洋文庫長	岩井　大慧
136	10月12日	殷墟建築阯	中華民国中央研究院研究員	石　璋如
137	10月19日	インドにおける史蹟の調査	東京大学教授 東洋文庫理事	山本　達郎
138	10月26日	故宮博物院所蔵絵画の調査	東京大学東洋文化研究所教授	米澤　嘉圃
139	11月9日	詩経研究の方法	熊本大学教授	松本　雅明
	S.36年			
140	5月24日	両税法成立の由来	九州大学教授	日野開三郎
141	5月31日	我が南西及び南方諸島の南蛮海図	文学博士、パリ大学D・Sc	中村　拓

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
142	6月7日	中国貨幣史上の大銭	東洋文庫研究員 東京教育大学助教授	中嶋　敏
143	6月14日	アジア史における仲継貿易の意義	早稲田大学教授	松田　寿男
144	6月21日	日本研究の二人の先駆者、アンテルモ・セヴェリイニとカロル・ベレンツィヤーニ	国立ナポリ東洋大学学長	Marcello Muccioli
145	6月28日	ハンガリー語の初期の文献	東京外国語大学教授	徳永　康元
146	10月11日	漢代豪族論	名古屋大学教授	宇都宮清吉
147	10月18日	漢代の王国	日本大学教授	鎌田　重雄
148	10月25日	漢の国家構造に関する一試論	早稲田大学教授	栗原　朋信
149	11月1日	漢末王莽時代における第二次農地の崩壊と農民叛乱	東京教育大学助教授	木村　正雄
150	11月8日	漢代の租税形態	立命館大学教授	平中　苓次
151	11月15日	韻鏡の研究について	東京大学助教授	三根谷　徹
	S.37年			
152	5月30日	第三世パンチェンと乾隆帝	東洋文庫研究員	多田　等観
153	6月6日	楽浪の印と封泥——『漢委奴国王』金印に関連して	奈良国立文化財研究所研究員	樋本　杜人
154	6月13日	鳩摩羅什論	京都国立博物館館長	塚本　善隆
155	6月20日	東洋における毛筆の発達と書画様式の関係	早稲田大学教授	安藤　更生
156	6月27日	大秦国の妙薬	慶応義塾大学教授	前嶋　信次
157	10月17日	チベット学の現状について	東洋文庫研究員	北村　甫
158	10月24日	朝鮮の貢納について	国立国会図書館支部東洋文庫司書	田川　孝三
159	11月14日	古代バビロニアの紀年について	中央大学教授	板倉　勝正
160	11月21日	古代エジプトの政治	東京教育大学教授	杉　勇
161	11月28日	イスラエルの宗教と文化	東京教育大学助教授	関根　正雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
	S.38年			
162	5月15日	西域仏寺の伽藍配置について	東京国立文化財研究所美術第一研究室長	熊谷　宣夫
163	5月22日	日本民族の形成と日本国家の成立について	東京大学東洋文化研究所教授	江上　波夫
164	5月29日	ポルトガルの東洋貿易における諸問題	九州大学教授	箭内　健次
165	6月5日	準噶爾史考	京都大学教授	羽田　明
166	6月12日	元朝の海上貿易政策	お茶の水女子大学助教授	和田　久徳
167	6月19日	The Hellenistic Elements in the Art between Khotan（于闐）and Yün-Kang（雲崗）	Prof. University of Hamburg	A.von Gabain
168	10月16日	ルイス・フロイスの『日本史』と『書翰』について	清泉女子大学教授	松田　毅一
169	10月23日	梁職貢図の西域関係記事について	東京大学教授 東洋文庫研究部長	榎　一雄
170	10月30日	明代西南シナ諸土司の民族系譜的考察	上智大学教授	白鳥　芳郎
171	11月6日	東亜の古ガラス	京都大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原　末治
172	11月13日	ランダルマの子孫について	京都大学助教授	佐藤　長
173	11月20日	東洋的古代	京都大学教授	宮崎　市定
	S.39年			
174	5月12日	欧亜大陸北辺の古代——殊にスキティヤの文物に就いて—— 1．既往の研究とその資料	京都大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原　末治
175	5月13日	欧亜大陸北辺の古代——殊にスキティヤの文物に就いて—— 2．それと東亜との文物の交流に就いての所見	京都大学名誉教授 東洋文庫評議員	梅原　末治
176	5月20日	宋元刊本の特徴と鑑別	法政大学教授	長澤規矩也
177	5月27日	アジアの河川について	元東京大学教授 資料科学研究所理事長	安芸　皎一

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
178	6月3日	フィリッピン史の一齣——ウルダネタ神父の旅行を中心として——	ラテン・アメリカ協会理事長	井澤　實
179	6月10日	潘賜と源永春	東京国立文化財研究所所員	川上　淫
180	6月17日	タイ語の史料について	外務省アジア局南西アジア課	石井　米雄
181	10月21日	欧米現存の満洲語文献	東洋文庫研究員 明治大学教授	神田　信夫
182	10月28日	読書人とその家	東京大学名誉教授	倉石武四郎
183	11月4日	殷代の祭祀について	弘前大学教授	島　邦男
184	11月11日	近代中国の地主文書——その種類と性質——	一橋大学教授	村松　祐次
185	11月18日	西域の滅びた町と河川の縮小——シルクロード沿道地帯の自然の変化——	東京都立大学教授	保柳　睦美
	S.40年			
186	5月12日	耶馬台国問題についての考古学上の所見	(前出)	梅原　末治
187	5月19日	白鳥博士の広く知られていない諸研究——白鳥博士生誕百年を迎えて——	国学院大学教授	石田幹之助
188	5月26日	古代インドの占術	東洋文庫研究顧問 東京大学名誉教授	辻　直四郎
189	6月2日	西夏語・西夏文字研究の新段階	京都大学助教授	西田　龍雄
190	6月9日	越南訴訟法の性格 ——『国朝勘訟条例』の一考察——	東洋文庫研究生 東京大学教授	山本　達郎
191	6月16日	宋代浙西地方の水利と圍田問題——土地所有制について——	東洋文庫研究生 東京大学教授	周藤　吉之
192	10月13日	ウマル二世の土地政策	中央大学教授	嶋田　襄平
193	10月20日	イランの今昔	東海大学教授	足利　惇氏
194	10月27日	チャガタイ=ハン国史の一・二の問題	新潟大学名誉教授	植村　清二
195	11月10日	カザン=ハンの改革——イランのモンゴル政権の性格に就いて——	北海道大学教授	本田　實信

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
196	11月17日	ジハード（聖戦）について	慶応義塾大学助教授	遠峰　四郎
	S.41年			
197	5月18日	中国芸術の六朝から唐代への展開序説	日本学士院会員 東洋文庫研究顧問	原田　淑人
198	5月25日	楷書の成立——楼蘭・吐魯番文書による四～六世紀の解明——	慶応義塾大学講師	西川　寧
199	6月1日	敦煌絵画における説話表現の展開	東京国立文化財研究所第一研究室長	秋山　光和
200	6月8日	顔氏家訓について	大阪大学教授	守屋美都雄
201	6月15日	六朝から唐代へ——中国文学史の移り変り——	名古屋大学教授	入矢　義高
202	10月12日	高昌国とその周辺	中央大学教授	嶋崎　昌
203	10月19日	律令学における私の立場	東北大学名誉教授	曽我部静雄
204	10月26日	十一・十二世紀におけるモンゴル部族社会の構造	東京都立大学助教授	村上　正二
205	11月9日	南朝梁の官僚層	九州大学助教授	越智　重明
206	11月16日	史記抄について	京都大学人文科学研究所所長 東洋文庫東洋学連絡委員会委員	森　鹿三
	S.42年			
207	5月17日	高昌国・隋・日本の錦	龍村美術織物研究所所長	龍村　平蔵
208	5月24日	漆芸と技法	日本芸術院会員	松田　権六
209	5月31日	鋳造法のさまざま	文化財専門審議委員	香取　正彦
210	6月7日	藍と紅のそめもの	染織作家	松原　利男
211	6月14日	中国の古印	日展評議員	小林　斗盦
212	10月18日	モリソンと東洋文庫——モリソン文庫五十周年を迎えて——	国学院大学教授 元東洋文庫主事	石田幹之助
213	10月25日	東北大学狩野文庫について	東北大学附属図書館古典目録編纂主任	矢島　玄亮

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
214	11月1日	慶応義塾大学斯道文庫について	慶応義塾大学教授	阿部　隆一
215	11月8日	静嘉堂文庫陸心源旧蔵本について	静嘉堂文庫長	米山寅太郎
216	11月15日	天理図書館錦屋文庫について	天理大学教授	木村三四吾
	S.43年			
	S.43年度　春期共通テーマ「南蛮文化の伝来について」			
217	5月8日	南蛮風俗の伝来時期	亜細亜大学教授	岡本　良知
218	5月15日	〃	〃	〃
219	5月22日	障屏画としての南蛮地図屏風の成立	〃	〃
220	5月29日	〃	〃	〃
221	10月16日	東京大学アンデス地帯学術調査団の十年	東京大学教授	泉　靖一
222	10月23日	チベット文明とヒンドゥー文明の比較研究について——前近代的文明の諸問題	東京工業大学教授	川喜田二郎
223	10月30日	東京大学イラク・イラン遺跡調査団の十年	東京大学名誉教授 札幌大学教授	江上　波夫
224	11月6日	京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査について——クシャン文化研究の国際的動向と京大の発掘——	京都大学助教授	樋口　隆康
	S.44年			
	S.44年度　春期共通テーマ「東西文化の交渉——近代日本と大陸文化——」			
225	5月7日	道教と日本の庚申信仰	東京大学教授	窪　徳忠
226	5月14日	江戸文学と中国文学	学習院院長	麻生　磯次
227	5月21日	日本新儒学の発達と朝鮮との関係	実践女子大学教授	阿部　吉雄
228	5月28日	陶磁の技術とデザイン——日本の受け入れたもの——	京都大学助教授	吉田　光邦
229	6月4日	日本の水墨画に与えた中国の影響	東海大学教授	蓮見　重康
	秋期共通テーマ「アジアとヨーロッパ——その思想的交流——」			
230	10月22日	アリストテレスと東洋——特に日本との関係について——	東京大学助教授	伊東俊太郎

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
231	10月29日	近代西欧のアジア観について	東京大学助教授	松井　透
232	11月5日	西洋人が見た明朝シナの試験制度	東京大学助教授	平川　祐弘
233	11月12日	西洋思想に対する仏教の特徴	東京大学教授	玉城康四郎
	S.45年			
234	5月20日	殷王朝の墓制	京都大学名誉教授 東洋文庫研究員	梅原　末治
235	5月27日	唐宋の間，磁器産業の成立	東北大学教授	愛宕　松男
236	6月3日	漢儒と道家の思想	広島大学名誉教授	板野　長八
237	6月10日	朝鮮の郡県制度	東京都立大学教授	旗田　巍
238	10月7日	歴史思想における中国と日本――『大日本史』編纂の思想的背景――	東京大学教授	尾藤　正英
239	10月14日	江戸儒学における説文段注	お茶の水女子大学教授	頼　惟勤
240	10月21日	日本儒学の特色	東京大学助教授	相良　亨
241	10月28日	日本の史前時代における中国文化の波及	(前出)	梅原　末治
	S.46年			
242	5月19日	上古畿内の状態と邪馬台国問題	(前出)	梅原　末治
243	5月26日	三代の校訂――和字正濫鈔の場合――		山田　忠雄
244	6月2日	モリソン文書について	東京大学教授 東洋文庫研究部長	榎　一雄
245	6月9日	慶元条法事類について	東京教育大学教授 東洋文庫研究員	中嶋　敏
246	6月16日	李氏朝鮮と出版文化	東洋文庫研究員	田川　孝三
247	10月6日	タイ国北部の山地民の生活――カレン族を中心に――	東京外国語大学助教授	飯島　茂
248	10月13日	ヒマラヤの僧院生活	国士舘大学教授	光島　督
249	10月20日	チベットの僧院生活		西川　一二
250	10月27日	タイの僧院生活	京都大学教授	石井　米雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
	S.47年			
251	5月17日	中国古代券・契の諸相——トゥルファン出土文書を中心として——	東京大学助教授	池田　温
252	5月24日	中国均田制の実施状況——敦煌文書にもとづいて——	国際基督教大学教授 東洋文庫研究員	山本　達郎
253	5月31日	中央アジア出土の仏典の種々相	龍谷大学教授	井ノ口泰淳
254	6月7日	中国均田制の問題点——吐魯番・敦煌出土文書を中心として——	龍谷大学教授	西村　元佑
255	10月24日	朝鮮李朝の地域社会について	東洋文庫研究員	田川　孝三
256	10月31日	中華若木抄について	一橋大学教授 東洋文庫研究員	亀井　孝
257	11月7日	中国農業の史的展開	追手門学院大学教授	天野元之助
258	11月14日	中国明初の儒臣——特に劉基を中心として——	国士舘大学講師	中山　八郎
	S.48年			
259	5月15日	漢字音と朝鮮語	東京教育大学教授 東洋文庫研究員	河野　六郎
260	5月22日	唐代字音史の一側面	東京大学講師	平山　久雄
261	5月29日	越南漢字音の伝承	東京大学教授 東洋文庫研究員	三根谷　徹
262	6月5日	日本漢字音の特質	東京教育大学助教授	小松　英雄
263	6月12日	太平天国における女性	お茶の水女子大学教授 東洋文庫研究員	市古　宙三
264	10月16日	森　有禮——日本の生んだ西洋人——	ハーヴァード大学在日代表	Ivan Hall
265	10月23日	中国文化と日本——沖縄県を中心として——	東京大学東洋文化研究所教授	窪　徳忠
266	10月30日	敦煌資料と日本文学——変文とエトキ——	金沢大学教授	川口　久雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
267	11月5日	日本人の宗教世界と仏教諸尊——二三の管見——	仏国立高等研究院教授 日仏会館館長	Bernard Frank
	S.49年			
268	5月21日	虎塚古墳と東国の装飾古墳	明治大学教授	大塚　初重
269	5月28日	土器片は語る——パレスチナ考古学の方法——	東京大学助教授	後藤光一郎
270	6月4日	エジプト・マルカタ遺跡と彩色段階の発見	早稲田大学教授	川村　喜一
271	6月11日	沖の島発見の唐三彩	九州大学教授	岡崎　敬
272	10月29日	新羅の郡県について	学習院大学教授 東洋文庫研究員	末松　保和
273	11月5日	中国考古学の現状	東京大学教授 東洋文庫研究員	関野　雄
274	11月12日	紙の歴史	元三菱製紙株式会社役員	関　義城
275	11月20日	キャラヴァン貿易の歴史	東洋文庫専務理事 東京大学名誉教授	榎　一雄
	S.50年			
276	5月13日	モリソン氏と小田切万寿之助氏と——財団法人東洋文庫設立五十周年記念にちなんで——	(前出)	榎　一雄
277	5月20日	蘭医 Willen ten Rhyne と日本医学	日本学士院会員 東洋文庫研究員	岩生　成一
278	5月27日	茶と歴史	東洋文庫研究員 京都大学名誉教授	佐伯　富
279	6月3日	清代の裁判に現われた家族法	東京大学教授 東洋文庫研究員	滋賀　秀三
280	6月10日	宋と高麗との官僚制をめぐる諸問題——宋代東アジア史の一端として——	東洋大学教授 東洋文庫研究員	周藤　吉之
281	10月21日	インドの婚礼と葬礼	東洋文庫理事長 日本学士院会員	辻　直四郎

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
282	10月28日	遊牧国家とソグド人	東京大学教授 東洋文庫研究員	護　雅夫
283	11月4日	白氏文集について	日本大学教授 京都大学名誉教授	平岡　武夫
284	11月11日	原本系『玉篇』のひとつの方法	大阪市立大学教授	小島　憲之
285	11月18日	21世紀の東洋文庫——東洋文庫50周年記念講座を終るに当って——	東洋文庫専務理事 東京大学名誉教授	榎　一雄
	S.51年			
286	5月18日	キリシタン教会の資金調達法について——特に委託貿易とレスポンデンシアを中心として——	慶応大学助教授	高瀬弘一郎
287	5月25日	インド史におけるスーフィー聖者の墓廟——宗教権威と支配権力——	東京大学教授 東洋文庫研究員	荒　松雄
288	6月1日	中国古代における風の信仰と五行説	二松学舎大学教授 東京大学名誉教授	赤塚　忠
289	6月8日	明清地方劇の社会構造	東京大学助教授	田仲　一成
290	6月15日	古代インドの苦行者——呪と破戒——	東京大学教授	原　實
291	10月26日	中国小説史の源流を支えたもの	東京大学教授	前野　直彬
292	11月2日	支那地図史上の十六・七世紀	(前出)	榎　一雄
293	11月9日	明・清代の漕糧輸送制を比較して	山形大学教授	星　斌夫
294	11月16日	朝貢体制の本質——中国・ベトナムの邦交関係——	慶応義塾大学教授	和田　博徳
	S.52年			
295	5月24日	敦煌とヤールカンド ——キャラヴァン貿易史の一齣——	(前出)	榎　一雄
296	5月31日	支那地図学史上の日本	大阪大学教授	海野　一隆
297	6月7日	近世の中国向け輸出貿易と国内産業	日本大学教授	荒居　英次
298	6月14日	清初の露清関係をめぐる諸問題	前埼玉県立博物館長	吉田　金一
299	10月18日	洪皓と松漠紀聞	大阪外国語大学名誉教授 愛泉女子短期大学教授	外山　軍治

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
300	10月25日	中国思想史の諸断面	大正大学前学長 早稲田大学名誉教授	福井　康順
301	11月1日	好太王碑文研究余話	東洋文庫研究員 学習院大学名誉教授	末松　保和
302	11月8日	ヨーロッパの近代化とアジア	東洋文庫専務理事 東京大学名誉教授	榎　一雄
	S.53年			
303	5月30日	文房四友印記	関西大学教授	水田　紀久
304	6月6日	伴信友管見	東洋文庫研究員 図書館短期大学 助教授	酒井　憲二
305	6月13日	狩谷棭斎の学問と交友	一橋大学教授	梅谷　文夫
306	6月20日	岡本保孝と幕末の学界	(前出)	榎　一雄
307	10月17日	佐藤一斎——人物と学問——	明治大学教授	田中　佩刀
308	10月24日	懐徳壎篪	関西大学教授	水田　紀久
309	10月31日	閑谷学校に就いて	岡山大学名誉教授 川崎医療短期大学 教授	林　秀一
310	11月7日	昌平黌官板に就いて	防衛大学校名誉教授 財団法人斯文会理事	麓　保孝
	S.54年			
		S.54年度　春期共通テーマ「敦煌地域の歴史と文化と自然」		
311	5月22日	支那史上における敦煌	(前出)	榎　一雄
312	5月29日	西北辺疆史上の姑臧	駒沢大学教授	前田　正名
313	6月5日	敦煌文献——その性格と価値——	東洋文庫研究員 東京大学教授	池田　温
314	6月12日	敦煌を中心とする地域の自然環境	東京地学協会副会長	保柳　睦美
		秋期共通テーマ「アジア大陸の都市の歴史的性格」		
315	10月30日	中世インドの都市デリー———13～16世紀の遺跡から——	東洋文庫研究員 東京大学教授	荒　松雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
316	11月6日	ムスリム都市と共同体	東洋文庫研究員 お茶の水女子大学助教授	佐藤　次高
317	11月13日	中国の都市——形態・機能と都市変革——	大阪大学教授	斯波　義信
318	11月20日	中央アジア都市の性格	東洋文庫専務理事 東京大学名誉教授	榎　一雄
	S.55年			
		S.55年度　春期共通テーマ「アジア史の時代区分」		
319	5月27日	朝鮮史の時代区分について——とくに古代国家をめぐって——	東京大学助教授	武田　幸男
320	6月3日	中国史の時代区分問題——前近代を中心に——	明治大学教授	堀　敏一
321	6月10日	北アジア史上におけるウイグル帝国時代	東洋文庫研究員 東京大学教授	護　雅夫
322	6月17日	インド史の時代区分について——とくに中世成立に関して——	東京大学教授	山崎　利男
		秋期共通テーマ「南海を中心とするアジア史」		
323	10月21日	アジア史と海洋	(前出)	榎　一雄
324	10月28日	室町幕府と琉球	東京大学教授	田中　健夫
325	11月4日	東南アジアの港市国家	お茶の水女子大学教授	和田　久徳
326	11月11日	長崎貿易における東南アジアの商人たち	関西大学教授	大庭　脩
	S.56年			
		S.56年度　春期共通テーマ「中国幣制の歴史的展開」		
327	5月26日	中国の銅貨の変遷	東北大学名誉教授	曽我部静雄
328	6月2日	中国史と銭の時代	東洋文庫研究員 大東文化大学教授	中嶋　敏
329	6月9日	1933年の全国的廃両改元について	近畿大学教授 神戸大学名誉教授	宮下　忠雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
330	6月16日	抗日根拠地における通貨および通貨政策——晋察冀辺区および晋冀魯豫辺区の実例——	神戸製鋼所非常勤顧問	岩武　照彦
		秋期共通テーマ「東アジア美術史の諸問題」		
331	10月20日	正倉院宝物の故地に関する考察	東京国立博物館東洋考古室長	杉山　二郎
332	10月27日	アスターナの出土遺品について	東京国立文化財研究所文献資料研究室長	上野　アキ
333	11月10日	キジール千仏洞とグリューンヴェーデルの業績	京都大学名誉教授	長廣　敏雄
334	11月17日	敦煌壁画の植物について（マンゴウ・ポプラ・ナツメヤシ）	静岡大学名誉教授 常葉学園大学教授	上野　実朗
	S.57年			
		S.57年度　春期共通テーマ「イスラーム世界」		
335	6月1日	ペルシア文学におけるイスラーム	東京外国語大学教授	黒柳　恒男
336	6月8日	アフリカにおけるイスラーム世界	東京外国語大学教授	日野　舜也
337	6月15日	イラン・シーア派の成立	東洋文庫研究員 京都大学教授	本田　實信
338	6月22日	少数者としての中国ムスリム	国立国会図書館参考書誌部長	中田　吉信
		秋期共通テーマ「中国の思想と文化」		
339	10月5日	『管子』の文献批判——時令思想を中心に——	東北大学教授	金谷　治
340	10月12日	中国哲学における「理の哲学」と「気の哲学」	大東文化大学教授	山井　湧
341	10月19日	宋元版をめぐって——正史を中心に——	慶応義塾大学助教授	尾崎　康
342	10月26日	経学と説話——再論「解鳥語」——	東京大学教授	戸川　芳郎
	S.58年			
		S.58年度　東洋文庫新築落成記念講演会		
343	10月18日	東西交渉史と幻人幻術	東洋文庫専務理事 東京大学名誉教授	榎　一雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
344	10月25日	梅咲きぬ　どれがむめやら　うめじゃやら	東洋文庫研究員 元成城大学教授	亀井　孝
345	11月1日	敦煌文書と莫高窟千仏洞	東洋文庫研究員 国学院大学助教授	土肥　義和
346	11月8日	明清時代の魚鱗図冊	東洋文庫研究員 横浜国立大学教授	鶴見　尚弘
347	11月15日	明・清時代の問屋制前貸生産について	東洋文庫研究員 信州大学教授	田中　正俊
348	11月22日	太平天国研究における問題点	東洋文庫研究員 愛知大学教授	河鰭　源治
	S.59年	S.59年度　東洋文庫創立60周年記念講演会		
349	5月29日	清朝の開国説話	東洋文庫研究員 日本大学教授	松村　潤
350	6月5日	チベットの成り立ち	東洋文庫研究員 東京大学教授	山口　瑞鳳
351	6月12日	前近代のアナトリアにおける都市化とワクフ文書	東洋文庫研究員 東京外国語大学助教授	永田　雄三
352	6月19日	古代インドのカースト制度——ヴァルナ制度と不可触民——	東洋文庫研究員 国学院大学教授	山崎　元一
353	10月23日	敦煌本の書誌——紙を主として——	東洋文庫研究員 北海道大学助教授	石塚　晴通
354	10月30日	春秋時代の夫人の呼称——「春秋」と「左伝」より——	東洋文庫研究員 青山学院大学教授	宇都木　章
355	11月6日	宋元版大蔵経について	東洋文庫研究員 京都大学教授	竺沙　雅章
356	11月13日	明治維新期の士族反乱	東洋文庫研究員 東海大学教授	田中　時彦
	S.60年			
357	5月28日	近藤重蔵の『喇嘛考』	東洋文庫研究員 筑波大学助教授	川崎　信定

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
358	6月4日	在英国日本古典籍について	東洋文庫研究員 東横学園短期大学助教授	林　望
359	6月11日	ムハンマド（マホメット）を生んだ社会	東洋文庫研究員 山形大学助教授	後藤　明
360	6月18日	宋代士大夫層の底辺	東洋文庫研究員 独協医科大学助教授	渡辺　紘良
361	10月15日	「二十四孝」と「本朝二十不孝」	東洋文庫研究員 成城大学教授	佐竹　昭広
362	10月22日	宋代の后妃	東洋文庫研究員 桐朋学園短期大学教授	千葉　雯
363	10月29日	賈似道の公田法	東洋文庫研究員 熊本大学教授	草野　靖
364	11月5日	中国の近代地主――江蘇，河南，四川における視覚的接近――	東洋文庫研究員 北海道大学教授	菊池　英夫
	S.61年			
365	5月27日	パリ平和会議における人種差別撤廃問題と日本――東と西の狭間で――	東洋文庫研究員 東京大学教授	鳥海　靖
366	6月3日	北京の四天主堂の変遷	東洋文庫研究員 埼玉大学名誉教授	矢澤　利彦
367	6月10日	トルファン出土写本のはなし	東洋文庫研究員 京都大学名誉教授	藤枝　晃
368	6月17日	古代インドのシンボリズム――ヴェーダ聖典の一説話をめぐって――	東洋文庫研究員 大正大学教授	松濤　誠達
369	10月21日	周王朝の系統について	仏教大学教授 京都大学名誉教授	佐藤　長
370	10月28日	マテオ・リッチと章潢――世界地図をめぐって――	東洋文庫研究員 明浄女子短期大学教授	海野　一隆
371	11月4日	秦漢時代における造営機構の一側面	東洋文庫研究員 東京大学名誉教授	関野　雄

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
372	11月11日	近年における中国人口史の研究	東洋文庫研究員 東京大学教授	斯波　義信
	S.62年			
373	5月19日	敦煌・吐魯番発見の文書によって知られる均田制	東洋文庫研究員 東京大学名誉教授	山本　達郎
374	5月26日	十六世紀末までの台湾	東洋文庫研究員 日本学士院会員	岩生　成一
375	6月2日	故宮博物院（台北）所蔵の梁職貢図について	東洋文庫理事長 東京大学名誉教授	榎　一雄
376	6月9日	ガンダーラにおける仏鉢の由来	京都大学教授	桑山　正進
377	10月27日	淡新檔案を通じて見た清代の訴訟	東洋文庫研究員 東京大学名誉教授	滋賀　秀三
378	11月10日	秦の天下統一について	東洋文庫研究員 九州大学名誉教授	越智　重明
379	11月17日	古典インドの誓い	東洋文庫研究員 東京大学教授	原　實
380	11月24日	清初史跡の二三について	東洋文庫研究員 明治大学教授	神田　信夫
	S.63年			
		S.63年度　春期共通テーマ「中国近現代史上の諸問題」		
381	6月7日	現代中国と近代史研究——郷鎮企業と合股制——	東京大学助教授	濱下　武志
382	6月14日	長江下流デルタ農村の土俗信仰	大阪大学教授	濱島　敦俊
383	6月21日	江南農村の宗教劇——近百年間の池州儺戯及び徽州目蓮戯の変遷と現況——	東京大学教授	田中　一成
384	6月28日	費孝通の小城鎮論と中国の人口問題	厚生省人口問題研究所地域構造研究室長	若林　敬子
		秋期共通テーマ「アジアの都市」		
385	10月25日	インドの都市——地理学からのアプローチ——	広島大学教授	藤原　健蔵
386	11月1日	中央アジアの都市——清代回疆の事例から——	甲南大学助教授	堀　直

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
387	11月8日	中国古代の都市——古代都市研究の現状と問題点——	専修大学教授	五井　直弘
388	11月15日	西アジアの都市——イラン都市の盛衰——	東洋文庫研究員 名古屋商科大学教授	本田　實信
	H.元年			
		H.元年度　春期共通テーマ「海上東西交渉史上の諸問題」		
389	6月13日	紅海沿岸の諸遺跡	財団法人中近東文化センター主任研究員	川床　睦夫
390	6月20日	中世の造船技術——泉州・新安の沈没船をめぐって——	神戸商船大学教授	松木　哲
391	6月27日	海のシルクロードとインド	東京大学教授	辛島　昇
392	7月4日	陶磁貿易からみたフィリピン	上智大学教授	青柳　洋治
		秋期共通テーマ「アジアの革命」		
393	10月17日	アラブ・ワッハーブ運動とサウジアラビア	国際大学助教授	小杉　泰
394	10月24日	中国の近代化と辛亥革命	日本女子大学教授	久保田文次
395	10月31日	トルコ革命	東洋文庫研究員 東京外国語大学助教授	永田　雄三
396	11月7日	イラン・イスラム革命	東洋文庫研究員 東京外国語大学助教授	八尾師　誠
	H.2年			
		H.2年度　春期共通テーマ「聖地巡礼」		
397	6月12日	メッカ巡礼とパン・イスラミズム	慶応義塾大学助教授	坂本　勉
398	6月19日	伝統への回帰——北インドの集団巡礼に同行して——	拓殖大学教授	坂田　貞二
399	6月26日	ア・トポスへの巡礼	東京外国語大学助手	中澤　新一
		秋期共通テーマ「中国朝鮮の絵地図を読む」		
400	10月9日	唐代の都城と関所	京都大学教授	礪波　護

回	開催日	題目	講演年次現職	氏名
401	10月16日	古地図で歩く李朝時代のソウル	東京外国語大学 助教授	吉田　光男
402	10月23日	目で見る宋代都市	東京大学教授	梅原　郁
	H．3年			
		H．3年度　春期共通テーマ「暮らしのなかのイスラーム」		
403	5月14日	スーフィズム——黄土高原の希望——	中国作家協会理事	張　承志
404	5月21日	魚喰うアラブ——湾岸激動の考古学的背景——	立教大学教授	小西　正捷
405	5月28日	イランの民間信仰	東京外国語大学教授	上岡　弘二
		秋期共通テーマ「フィールドワークの現場から」		
406	10月15日	清朝の檔案をめぐって——中国史料調査の一例——	東洋文庫研究員 国士舘大学助教授	石橋　崇雄
407	10月22日	新疆の砂漠とオアシス——ウイグル農村社会の過去と現在——	東洋文庫研究員 立正大学教授	梅村　坦
408	10月29日	『天工開物』の竹紙製造技術——実地調査の視点から——	東洋文庫研究員 東京外国語大学 助教授	Christian A. Daniels

III 業務報告

1. 総務報告

i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理事会

第280回　開催日　平成3年6月11日（火曜日）
出席者　北村　甫，有光次郎，市古宙三，岩崎寛彌，河野六郎
斯波義信，田中正俊，中村俊男，林　健太郎
委任状　護　雅夫

第281回　開催日　平成3年6月11日（火曜日）
出席者　北村　甫，有光次郎，市古宙三，岩崎寛彌，河野六郎
斯波義信，田中正俊，中村俊男，林　健太郎
委任状　護　雅夫

第282回　開催日　平成3年12月10日（火曜日）
出席者　北村　甫，市古宙三，岩崎寛彌，河野六郎，斯波義信
田中正俊，林　健太郎，山本達郎
委任状　有光次郎，中村俊男，護　雅夫

評議員会

第129回　開催日　平成3年6月11日（火曜日）
出席者　岡野　澄，神田信夫，亀井　孝，関野　雄，中嶋　敏
前田充明
委任状　有馬朗人，石川忠雄，小山宙丸，田部文一郎，中田乙一
西島安則，長谷川周重，日比野丈夫

第130回　開催日　平成3年12月10日（火曜日）
出席者　岡野　澄，神田信夫，亀井　孝，関野　雄，中嶋　敏
前田充明
委任状　有馬朗人，石川忠雄，小山宙丸，田部文一郎，中田乙一
西島安則，長谷川周重，日比野丈夫

ii　東洋学連絡委員会の開催

前　期　開催日　平成３年５月28日（火曜日）
出席者　北村　甫（委員長），市古宙三，入矢義高，本田實信
議　題　1．平成２年度財団法人東洋文庫事業報告について
2．平成３年度財団法人東洋文庫事業計画について
3．その他

後　期　開催日　平成３年11月26日（火曜日）
出席者　北村　甫（委員長），市古宙三，入矢義高，斯波義信
佐藤　長，竺沙雅章，中嶋　敏，西田龍雄，本田實信
山本達郎
議　題　1．平成３年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2．平成４年度財団法人東洋文庫事業計画案について
3．その他

2. 人 事 報 告

i 役員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
3.12.10.	理事	佐藤次高	就任	
12.15.	評議員	西島安則	退任	
12.16.	〃	井村裕夫	就任	

ii 職員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
3.4.1.	研究員（兼任）	立川武蔵	委嘱	
〃	〃	御牧克己	〃	
〃	〃	星実千代	〃	
〃	〃	片山章雄	〃	
〃	〃	柳田節子	〃	
〃	研究員（奨励）	荒川正晴	〃	
〃	〃	松田俊道	〃	
3.6.1.	〃（兼任）	風間喜代三	〃	
〃	〃	杉山正明	〃	
〃	参事	小松眞理	就職	
〃	司書	中善寺慎	〃	
3.9.1.	図書部長	斯波義信	委嘱	
4.1.1.	司書	蓮沼龍子	就職	
4.3.31.	研究員（奨励）	久保田宏次	退任	

iii 受　章

年　月　日	役　職　名	氏　　名	区　分	備　考
3.11.3.	東洋学連絡委員会委員	江　上　波　夫	受　章	文化勲章
〃	理　　事	護　　雅　夫	叙　勲	勲二等瑞宝章
3.11.5.	評　議　員	石　川　忠　雄	顕　章	文化功労者

IV 役職員名簿

平成4年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は，以下のとおりである。

1. 役　員

役職名	氏名	現職
理事長	北村　甫	麗澤大学教授 東京外国語大学名誉教授
理事	有光次郎	日本芸術院顧問
〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	岩崎寛彌	株式会社三菱銀行取締役 東山農事株式会社代表取締役社長
〃	河野六郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	佐藤次高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
〃	斯波義信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	田中正俊	神田外語大学教授 東京大学名誉教授
〃	中村俊男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林　健太郎	東京大学名誉教授
〃	護　雅夫	東京大学名誉教授
〃	山本達郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監事	池原正道	日本コムシス株式会社監査役
〃	白石元良	三菱金曜会事務局長

役職名	氏名	現職
評議員	有馬朗人	東京大学長
〃	石川忠雄	慶應義塾長
〃	井村裕夫	京都大学長
〃	岡野澄	財団法人井上科学振興財団常務理事 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター運営委員
〃	亀井孝	一橋大学名誉教授
〃	神田信夫	明治大学教授
〃	小山宙丸	早稲田大学総長
〃	関野雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田部文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	中嶋敏	東京教育大学名誉教授
〃	中田乙一	三菱地所株式会社相談役
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社相談役
〃	日比野丈夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	前田充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター顧問

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	北村甫	財団法人東洋文庫理事長，麗澤大学教授
委員	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	入矢義高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
〃	江上波夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾崎康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	佐藤長	佛教大学教授 京都大学名誉教授
〃	斯波義信	国際基督教大学教授
〃	竺沙雅章	京都大学教授
〃	長尾雅人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中嶋敏	東京教育大学名誉教授
〃	西田龍雄	京都大学教授
〃	日比野丈夫	大手前女子大学長，京都大学名誉教授
〃	本田實信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
〃	山本達郎	日本学士院会員，東京大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
A. フォン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
J. ジェルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職　員

（平成４年３月31日現在）

部　名	職　名	氏　名	現　職
研究部	部　長	佐藤次高	東京大学教授
	研究員（兼任）	荒松雄	恵泉女学園大学教授
	〃	池田温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	池端雪浦	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	石井米雄	上智大学教授
	〃	石塚晴通	北海道大学教授
	〃	石橋崇雄	国士舘大学助教授
	〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
	〃	宇都木章	青山学院大学教授
	〃	梅村坦	立正大学教授
	〃	海野一隆	大阪大学名誉教授
	〃	小名康之	青山学院大学教授
	〃	越智重明	久留米大学教授
	〃	岡田英弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	風間喜代三	法政大学教授
	〃	片山章雄	東海大学専任講師
	〃	亀井孝	一橋大学名誉教授
	〃	川崎信定	筑波大学教授
	〃	神田信夫	明治大学教授
	〃	菊池英夫	中央大学教授
	〃	北村甫	麗澤大学教授
	〃	草野靖	熊本大学教授
	〃	小松久男	東海大学助教授
	〃	河野六郎	東京教育大学名誉教授
	〃	後藤明	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	後藤均平	立教大学教授
	〃	佐伯富	京都大学名誉教授
	〃	佐竹昭広	成城大学教授
	〃	酒井憲二	調布学園女子短期大学長
	〃	志茂碩敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	斯波義信	国際基督教大学教授

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
	研究部（兼任）	滋賀秀三	東京大学名誉教授
	〃	薗　勇造	東京大学助教授
	〃	清水宏祐	東京外国語大学教授
	〃	杉山正明	京都女子大学助教授
	〃	鈴木立子	愛知大学助教授
	〃	関野　雄	東京大学名誉教授
	〃	田中時彦	東海大学教授
	〃	田中正俊	神田外語大学教授
	〃	クリスチャン A・ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	〃	武田幸男	東京大学教授
	〃	立川武蔵	名古屋大学教授
	〃	千葉　奨	桐朋学園理事長
	〃	竺沙雅章	京都大学教授
	〃	鶴見尚弘	横浜国立大学教授
	〃	杤尾　武	成城大学教授
	〃	土肥義和	國学院大学教授
	〃	鳥海　靖	東京大学教授
	〃	中嶋　敏	東京教育大学名誉教授
	〃	永田雄三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	八尾師　誠	東京外国語大学助教授
	〃	花田宇秋	明治学院大学教授
	〃	林　　望	東横学園女子短期大学助教授
	〃	原　　實	東京大学名誉教授
	〃	藤枝　晃	京都大学名誉教授
	〃	古屋昭弘	早稲田大学教授
	〃	星　實千代	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員
	〃	本田實信	名古屋商科大学教授
	〃	松濤誠達	大正大学教授
	〃	松村　潤	日本大学教授
	〃	三浦　徹	お茶の水女子大学専任講師

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
	研究員（兼任）	三根谷　　徹	東京大学名誉教授
	〃	御牧　克己	京都大学教授
	〃	護　　雅夫	東京大学名誉教授
	〃	森岡　　康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	矢澤　利彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳田　征司	愛媛大学教授
	〃	柳田　節子	学習院大学教授
	〃	山内　弘一	上智大学助教授
	〃	山口　瑞鳳	東京大学名誉教授
	〃	山口　謠司	ケンブリッジ大学助手
	〃	山崎　元一	國学院大学教授
	〃	山根　幸夫	東京女子大学名誉教授
	〃	山本　達郎	東京大学名誉教授
	〃	和田　博徳	創価大学教授
	〃	渡辺　　宏	東洋大学アジア・アフリカ研究所研究員
	〃	渡辺　紘良	獨協医科大学教授
	研究員（専任）	松本　　明	

部　名	職　　名	氏　　名
図書部	部　　長	斯　波　義　信
	東洋文庫長	渡　辺　兼　庸*
	主　　査	小　山　　勲*，竹之内　信　子*
	副 主 査	池　田　直　人*，志　茂　碩　敏*，広　瀬　洋　子*
	事務主任	小　林　輝　男*，西　薗　一　男*
	司　　書	桜　井　　徹，中善寺　　慎，蓮　沼　龍　子
総務部	部　　長	東　　陽太郎
	課　　長	光　田　憲　雄
	会計係長	金　子　祐　子
	参　　事	中　沢　元　幸，橘　　仲　子，小　松　眞　理
		広　木　節　巳，吉　田　男佐武

（＊印は国立国会図書館支部東洋文庫職員）

5. 臨時職員

部　名	氏　　名
研究部	石川重雄，石川美恵，市田真理，井上正之 宇佐見暁，加藤勝久，兼平充明，現銀谷史明 近藤亮，斎藤達也，ウィリアム・シャング 塔那，田中公明，段瑞聡，中林豊 仲里和也，原朝子，広瀬一恵，福原良隆 帆刈浩之，星野多佳子，松田康博，山口洋 吉田健翁，李培徳
図書部	石川むつみ，石黒ひさ子，磯谷泰幸，井上治 岩永正子，岩見隆，大島誠二，金沢悦男 小美野純一，清水一枝，沈潔，関喜房 高木雅弘，高田幸男，永井美智代，成宮裕季 荷見守義，浜尾彰久，前迫勝明，山口乾 山崎淑子，ヤマンラール・水野美奈子
総務部	中太葉子

V　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概　要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし，研究の促進，及び研究成果の普及を図る。

1．情　報　活　動

【概　要】 アジア諸地域の人文・社会科学の分野の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し，その情報を公開することによって，国内外の諸研究機関及び研究者の間の交流・協力を促進する。

1－1．国内研究情報の収集・整理

【概　要】 国内のアジア研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集・整理し，公開するとともに，研究機関・研究者相互間の交流を促進する。

【事業内容】

(1)　国内研究機関の情報の収集

研究機関の近年の著しい増加に対応して新たな機関リストの作成を進め，研究機関が発行する要覧・紀要などの収集をした。また，主要な機関をセンター所員が訪れ，相互の活動状況について情報を交換した。

(2)　国内研究者名簿の作成

研究者名簿の収集・整理，研究者個人カードの作成を通じて，各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新し，「日本におけるアジア・北アフリカ史研究者名簿」の改訂，「日本における中国哲学研究者名簿」の編集を行った。

1－2．国外研究情報の収集・整理

【概　要】 アジア諸国の人文・社会科学関係の研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集・整理し，国際的な学術交流のための基礎資料とする。

【事業内容】

(1) 国外研究情報の収集

(1)—A．国外研究機関の訪問調査

本年度調査国の研究機関，研究状況等についての資料収集をし，アジア関係研究機関の訪問調査をした。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

大韓民国：大井　剛（センター調査外事室長）　10月21日—10月30日
藤井和夫（日野市ふるさと博物館学芸係長）　10月21日—10月30日

(1)—B．研究会・講演会の開催

来日中の外国人研究者等を招いて研究会・講演会を開催し，諸外国の研究情報を得，国内研究者との交流を図った。

6月8日(土)　ベンジャミン・エルマン　Benjamin A. Elman　カリフォルニア大学ロサンゼルス校歴史学部教授を迎えて［研究会］
主題：「Late Imperial China の思想について—宋代と明清時代との比較の視点」
司会：伊原　弘　　会場：東洋文庫会議室　　出席者：11名

11月13日(水)　ドルジェ・ツェデン　Dorje Cedan（多杰才旦）　中国蔵学研究中心総幹事［講演会］
演題：「中国蔵学研究中心について」
司会：中根千枝　　会場：東洋文庫会議室　　出席者：17名
共催：東洋文庫

(1)—C．外国人研究者，各種専門家に対する便宜供与

本年度1-2-(1)-B及び1-2-(2)に記載の外国人研究者以外に，センターを訪れ，センターが情報等の便宜供与を行った外国人研究者は下記の通りである。

Chakrit Choomwattana (Ms)	Lecturer, Faculty of Social Science, Srinakharinwirot University, Bangkok, Thailand
István Szerdahelyi	在日本ハンガリー共和国大使館二等書記官
Yuri A. Petrosyan	Director, Institute of Oriental Studies, USSR Academy of Sciences (Sankt-Peterburg Branch), Sankt-Peterburg, USSR
Aleksey I. Semenov	Deputy Head, Dept. of Problems of World Economy and International Relations, USSR Academy of Sciences, Moscow, USSR

Jean Calmard　Professor, Université de Paris III ; Researcher, Centre National de la Recherche Scientifique, Paris, France

洪　潤　植　東国大学校師範大学歴史教育科教授，ソウル，韓国

金　錫　禧　釜山大学校人文大学史学科教授，釜山，韓国

Iik A. Mansurnoor　Head, Dept. of History, University of Brunei, Darussalam, Brunei

(1)—D．ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

(2)　海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

呉　宏　一　台湾，中央研究院中国文哲研究所所長

林　慶　彰　同研究所副研究員

平成３年３月29日—４月10日

Dorje Cedan（多杰才旦）　中国，中国蔵学研究中心総幹事

平成３年11月10日—11月24日　財団法人民族学振興会との協力のもとに招聘，講演を東洋文庫（上記１－２-(1)-B）及び日本西蔵学会（11月16日，会場は京都，種智院大学）にて行った。

学術交流を目的として来日した専門家を下記の通り受け入れた。

Lapian, Adrian Bernard　Senior Researcher, Centre for Social and Cultural Studies, Indonesian Institute of Sciences (LIPI), Jacarta ; Professor of History, Faculty of Letters, University of Indonesia.

平成３年８月17日—８月24日　日本学術振興会の招聘による。

Mattani Rutnin (Ms)　Professor, Drama Dept., Faculty of Fine and Applied Arts, Thammasat University, Bangkok, Thailand.

Duangruthai Pumipichet (Ms)　Assistant, Thammasat University.

上記２名は平成３年10月11日—11月２日　国際交流基金の招聘による。

Mattani Rutnin (Ms)　前出

Malinee Dilokwanich (Ms)　Professor, Chinese Language Dept., Faculty of Liberal Arts, Thammasat University, Bangkok, Thailand.

上記２名は平成４年３月29日—４月４日　国際交流基金の招聘による。

1－3．学術情報の提供

【概　要】 収集した学術情報を，directory, bibliography 等として英文で刊行し，内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 海外研究機関一覧の編集

韓国，中国，台湾，インドネシア，タイ，及びインドに存在するアジア関係研究機関のリストの作成及び資料収集を行った。

(2) 「日本におけるアジア研究機関一覧」の編集・出版

国内研究機関リストの作成及び資料収集を行った。

(3) 文献目録の編集・出版

下記の編集・出版を行った。

「日本における中東・イスラーム研究文献目録　1868年-1988年」［出版］

"Bibliography of Islamic and Middle Eastern Studies in Japan, 1868-1988" compiled by CEACS.

これは，ユネスコ本部のパーティシペイション・プログラムとして企画し，明治初から昭和末に至る120年間の当該研究文献を調査して，その書誌約１万５千件を欧文または現地語の標題を付して収録したものである。編集は佐藤次高東京大学教授及び三浦徹お茶の水女子大学助教授の指導のもとに行われた。刊行にあたり有限会社多摩アセット，並びに財団法人国際文化会館の援助金を受けた。

「ベトナム書誌」［編集］

原稿の校閲を前年度に引続き川本邦衛慶応義塾大学言語文化研究所教授に依頼した。

(4) 我が国におけるアジア研究の現状の調査の編集・出版

「日本における東洋学の回顧と展望　1973-1983　アジアの部」の編集と下記の「中国言語学」篇（Part II－５）の出版を行った。

"Japanese Studies on Chinese Linguistics, 1973-1983" 中嶋幹起著

同書をもってこのシリーズの刊行を終了し，今後この事業の成果は "Asian Research Trends"（下記２-(1)）に反映させることとする。

2．研究成果の英文出版

【概　要】 アジア諸地域の文化・社会に関する資料及び研究の成果を英文で出版し，関係研究者並びに研究機関に周知する。

【事業内容】

(1) 機関誌 “Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review” の編集・出版

アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供するため，本年度は No. 2（v＋232p）を刊行した。アジア諸国におけるアジア研究・自国研究，日本におけるアジア研究の動向を中心に掲載，あわせてセンターが前年度までに実施した国外研究機関の訪問調査（上記1－2－(1)－Aに相当）の報告，海外からの招聘研究者（上記1－2－(2)に相当）による報告等を掲載した。

編集委員　　石井米雄（編集長），池端雪浦，梅村　坦，佐藤次高，中里成章，浜下武志，山内弘一

編集委員会

12月14日　No. 2及び No. 3以降の編集について検討した。

(2) 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献について，写真版によって複製し，普及を図るため，下記の編集・出版を行った。

「ナイ・パン・フラ収集モン語法典テキスト」[出版]

“Eleven Mon Dhammasāt Texts” collected by Nai Pan Hla, and in collaboration with Ryuji Okudaira.

これは，社団法人東京倶楽部の文化活動の助成金を受けて，ミャンマー（ビルマ）のナイ・パン・フラ氏の収集にかかるモン語ダンマサートのテキスト11種を影印し，同氏による英文の解説及びテキストの翻訳または梗概を付して刊行したものである。編集にあたり奥平龍二東京外国語大学教授の協力を仰いだ。

「バーガヴァタ・プラーナ挿画集」[編集]

専門委員　　奥平龍二，佐藤次高，武田幸男，立川武蔵，御牧克己，湯山　明

専門委員会

7月16日　同叢書の編集・出版計画について検討した。

(3) 「タイ国舞台芸術史」の編集

「タイ国舞台芸術史」（マッタニー・ルトニン著）の編集を進めた。著者について

は上記１－２－(2)を参照。

３．調査研究及び普及活動

【概　要】 国内外の研究機関の調査研究・普及その他の活動を補足し，センターを事務局とすることが効果的であると認められる事業を企画・運営する。

【事業内容】

(1)　第31回語学講習会「インドネシア語講習会」

名古屋大学文学部及び同大学大学院国際開発研究科の要望に応え，この両者の後援を得て，下記の通り開催した。名古屋での夏季集中講座は，特殊な言語の学習の機会に恵まれない地域の受講生の歓迎を受け，大学と地域との交流にも貢献した。

期　間：平成３年７月10日(水)―８月13日(火)　午前９時30分―12時30分（土・日曜日を除く）
　　なお土・日曜日及び放課後に適宜課外実習を実施した。

後　援：名古屋大学文学部・名古屋大学大学院国際開発研究科

会　場：名古屋大学文学部会議室

講　師：鏡味治也（金沢大学文学部助教授）
　　弘末雅士（天理大学外国語学部講師）
　　井東　猛（中部大学国際関係学部助教授）
　　ジョジョク・スパルジョ
　　リタ・マエムナー・ガルノ(Ms)

修了者：19名

(2)　一般普及活動

センターの活動についての問合せに応じ，また出版物の寄贈・交換等を行った。さらに「ニューズレター」No. ３を編集・発行した。

4. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議・運営小委員会

運営委員会

前 期 開 催 日　平成３年５月28日(火曜日)　午後１時30分～２時30分
場　　所　東洋文庫３階会議室
出席委員　４名　　委任状15名
報　　告　１．人事について
所長の交代について
顧問の再任について
参与の再任について
運営委員の委嘱・改選について
議　　題　１．平成２年度事業報告及び決算報告について
２．平成３年度事業計画案及び収支予算案について
３．その他
諸規程の整備について

後 期 開 催 日　平成３年11月26日(火曜日)　午後１時30分～２時40分
場　　所　東洋文庫３階会議室
出席委員　４名　　委任状14名
報　　告　１．新所長の挨拶
２．運営委員の委嘱について
３．運営委員の退任について
４．その他
役員の叙勲等について
議　　題　１．平成３年度事業中間報告及び収支状況報告について
２．平成４年度事業計画案及び収支予算案について

顧問会議

開 催 日　平成３年５月28日(火曜日)　午後１時30分～２時30分
場　　所　東洋文庫会議室
出席委員　１名　　委任状３名
報　　告　１．人事について
　　所長の交代について
　　顧問の再任について
　　参与の再任について
　　運営委員の委嘱・改選について
議　　題　１．所長の推薦について
　　２．平成２年度事業報告及び決算報告について
　　３．平成３年度事業計画案及び収支予算案について
　　４．その他
　　諸規程の整備について

運営小委員会

開 催 日　平成３年５月11日(土曜日)　午後６時～７時30分
場　　所　東京　電通生協会館
議　　題　１．所長の交代について
　　２．平成３年度事業計画について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	現職
3年 4. 1	運営委員	吉川 忠夫	就任	京都大学人文科学研究所所長
4.16	〃	益田 宗	〃	東京大学史料編纂所所長
5. 2	〃	上岡 弘二	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
6.10	〃	岡村 豊	退任	文部省大臣官房審議官
6.11	〃	山田 勝兵	就任	〃
〃	〃	石井 米雄	退任	上智大学教授
6.30	〃	高田 修	〃	東京国立文化財研究所名誉研究員
10.17	〃	野村 忠清	〃	前国際交流基金専務理事
10.18	〃	片倉 邦雄	就任	国際交流基金専務理事
11. 1	〃	斯波 義信	〃	国際基督教大学教授
4年 1. 1	〃	池端 雪浦	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	辛島 昇	〃	東京大学教授
〃	〃	佐藤 次高	〃	〃
2. 1	〃	竺沙 雅章	〃	京都大学教授
2.16	参与	青山 秀夫	逝去	京都大学名誉教授
3.31	運営委員	池田 温	退任	東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	利谷 信義	〃	東京大学社会科学研究所所長

C. 職員異動

年月日	職名	氏名	区分	備考
3年 6.11	所長	北村 甫	退任	
6.12	〃	石井 米雄	就任	
7. 1	研究員	設楽 靖子	転任	
4年 3.31	副所長	山崎 元一	退任	

D. 受　章

年月日	役職名	氏　名	区分	備　考
3年 10.26	運営委員	梅棹　忠夫	顕彰	文化功労者

E. 会計報告

平成3年度　ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（平成4年3月31日現在）

支出の部		収入の部	
科　目	金額（千円）	科　目	金額（千円）
事業費	27,101	国庫補助金	80,019
情報活動費	14,755	財産収入	10
国内研究機関との連絡費	798	雑収入	7,760
国外研究機関の情報の収集整理費	1,734		
学術情報の提供費	12,223		
研究成果の英文出版費	9,287		
調査研究及び普及活動費	3,059		
経常費	60,688		
人件費	58,549		
事務費	2,139		
計	87,789	計	87,789

5. 役職員名簿

平成4年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 所　長　石井米雄

B. 副所長　山崎元一

C. 運営委員

氏　名	現　職
池田　温	東京大学東洋文化研究所所長
池端雪浦	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
犬丸　直	ユネスコ・アジア文化センター理事長
梅棹忠夫	国立民族学博物館館長
尾高邦雄	日本学士院会員・東京大学名誉教授
岡野　澄	財団法人井上科学振興財団常務理事・財団法人東洋文庫評議員
片倉邦雄	国際交流基金専務理事
上岡弘二	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
辛島　昇	東京大学教授
河野　靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
佐々木高明	国立民族学博物館教授
佐藤次高	東京大学教授
斯波義信	国際基督教大学教授
竺沙雅章	京都大学教授
利谷信義	東京大学社会科学研究所所長
中根千枝	東京大学名誉教授・財団法人民族学振興会理事長
中村　元	日本学士院会員・東方学院院長・東京大学名誉教授
服部四郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
益田　宗	東京大学史料編纂所所長
宗像善俊	アジア経済研究所所長
矢野　暢	京都大学東南アジア研究センター所長
山田勝兵	文部省大臣官房審議官
山本達郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事
吉川忠夫	京都大学人文科学研究所所長
渡辺　伸	文部省大臣官房審議官

D. 顧　問

氏　名	現　職
天城　勲	日本ユネスコ国内委員会会長
鹿取泰衛	国際交流基金理事長
長谷川善一	文部省学術国際局局長
前田充明	財団法人国際学友会理事・城西大学名誉教授・財団法人東洋文庫評議員

E. 参　与

氏　名	現　職
織田武雄	京都大学名誉教授
田村實造	京都大学名誉教授
長尾雅人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
丸山真男	日本学士院会員・東京大学名誉教授

F. 専門員

John Wisnom

G. 職　員

職　名	氏　名
調査外事室長	大井　剛
普及室長	外池明江
庶務会計室長	飯田隆子
研究員	本庄比佐子　設楽靖子　福田洋一
参事	坂本葉子　小林和弘

H. 臨時職員

平成３年４月１日から平成４年３月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は，以下のとおりである。

相浦みどり，青柳かおる，秋葉　淳，飯塚正人，石丸由美，伊藤精和，井上和枝，宇野伸浩，太田晃雄，大稔哲也，粕谷　元，河津弘美，許　政雄，熊谷尚子，倉林康子，黒岩　高，高野太輔，後藤敦子，後藤裕加子，小松香織，小松智子，近藤信彰，斎藤愛美，佐々木あや乃，佐藤健太郎，島かおる，島谷泰子，清水和裕，高松洋一，竹野幸子，徳増克己，十倉桐子，古瀬珠水，堀井聡江，益子武士，松尾有里子，黛　秋津，三沢伸生，三好祥子，ヤマンラール・水野美奈子，森本一夫，門口朋江，山口昭彦，山中由里子，山本美華，與賀田こずえ，吉枝聡子，渡部良子

財団法人 東洋文庫年報 平成3年度

平成5年3月10日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫
北村 甫

印刷者 ㈱清菱印刷

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫